



OB・OGの
世代交流
拡大号

世代を越えて集う「東京鰐陵会」を目指して

特集1「第30回総会記念：米寿・喜寿に寄せて」 特集2「会員と共に」 特集3「母校は今」

東京鰐陵会・会長挨拶

コロナと共に新しいライフスタイルへ

東京鰐陵会会長 加藤友成(40回生)



のご理解を賜り、円滑に運営することができました。心から感謝申し上げます。引き続き、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

長かったコロナのトンネルを抜けて新しい社会活動が本格的に再開しました。東京鰐陵会の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。最近では久しぶりに友人・知人との旧交を確認し合う機会も増えてきたのではないのでしょうか。日頃は当会の運営に格段のご支援助とご協力を頂きまして、誠にありがとうございます。

東京鰐陵会総会は新型コロナの為に令和2年度は史上初めて中止となり、令和3年度は初めての「書面総会」の開催、令和4年度は感染者の増加ということで再度の中止を余儀なくされました。残念ではありますが運営委員会、理事会そして会員の皆様から

の皆様の参加をお待ちしております。

会報誌「東京鰐陵21号」については、交流の促進に貢献できるものにしていくために様々な特集を考えました。

令和5年度は「世代を越えて集う東京鰐陵会を目指して」を合言葉に引き続き活発に活動をして参ります。「東京鰐陵会総会」は第30回という節目でもあり是非とも開催すべく準備を進めております。3部構成とし、第1部「総会決議」、第2部「米寿・喜寿の祝い」、第3部「懇親会」としました。第2部では沢山の米寿・喜寿の方々をお迎えしてお祝いをさせて頂きたいと考えております。米寿祝いの対象回生の方(23回生・24回生・25回生・26回生)、喜寿祝いの対象の方(34回生・35回生・36回生・37回生)のご出席をお願い致します。また若い世代の方々にも大いに参加いただけるように努めてまいります。楽しい総会になることを願っております。多く

の特集3は「母校は今」と題しコロナ過での生徒たちの状況を報告して頂きました。コロナを克服していく生徒たちの姿が報告されています。

なお、昨年度校長先生としてご挨拶を頂きました高梨正博先生は令和4年度をもって退任されましたので前校長としてご挨拶頂いております。そのほかにも「特別寄稿」等で若い世代からの寄稿も頂きました。82回生の内海清佳さんと90回生の真籠竜大さんです。新型コロナウイルスによる影響の大きさと困難に立ち向かう大切さを改めて認識させられました。

是非ともご一読ください。これからも会報誌のみならず幅広い世代交流に向けて新たな取り組みにチャレンジしていきたいと考えております。昨年は多くの皆様から多額の協力が集まりました。ここに皆様のご協力で感謝するとともに心より厚く御礼申し上げます。

このところ物価上昇が続いておりますが、特に今年に入り東京鰐陵会にも各種費用の高騰により支出が増加傾向にあります。

今年度につきましても引き続き皆様のご協力・ご支援をお願いする次第です。よろしくお願い申し上げます。

今年こそ総会開催を

鰐陵同窓会会長 青木利光（43回生）



東京鰐陵会の皆様におかれましてはいかががお過ごしでしょうか。コロナ禍中でもご清祥で活躍のことと拝察申し上げます。また、日頃より本部事業には格段のご理解とご協力を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

令和2年1月に国内初の感染者が出て以降はコロナ感染症に翻弄される日が続きました。三密を避けての新しい生活様式を強いられ、緊急事態宣言が複数回出されてもなかなか収まらない。東京近辺にお住まいの皆さんは石巻の我々より何かと影響が大きかったのではないのでしょうか。この3年程ほどの鰐陵会も活動が制限されました。本部では総会等は出来ませんでした。同窓会入会式は休むこと

か。貴会の『東京鰐陵』にも多に期待しております。

今年度も理事会・評議員会は書面で議案を承認頂きました。貴重なご意見もたくさん頂戴しましたが、より良い事業のためには対面でもっと議論を交わす必要があります。今年こそは通常の会議で臨みたいと思っております。幸いにも今春はコロナ感染症も小康状態が続いています。第9波が来なければ総会も開催可能です。令和5年度総会は紆余曲折を経て、66・67回生の合同主管となりました。3年ぶりの総会がどのようなのか、彼らに大いに期待しております。

いと考えます。卒業生208名に違和感を持たれたと思いますが、95回生は入学時で定員割れでした。昭和に入学した我々には考えられない事態です。この状況改善に学校長を中心に尽力されていますが、母校単独ではなかなか解決困難です。同窓の皆様のお力添えが必須と感じております。会報65号は編集委員のお陰で立派に出来上がり、2月下旬に皆さんのお手元に届けました。いかがだったでしょう

校野球選手権大会の優勝校の白河越えよりもうれしい知らせではないでしょうか。運動部文化部を問わず、生徒会や母校行事への支援はお陰様で変わらぬことが出来ております。今後とも更なるご

百年を迎えた石巻高校

宮城県石巻高等学校前学校長 高梨正博



東京鰐陵会の皆様には、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より母校、石巻高等学校の教育活動に對しまして格別の御理解、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

皆様の母校、石巻高校は一九二三年の開校以来、満百歳を迎えました。創立百周年記念式典は新型コロナウイルス感染症の影響で一年延期し、令和六年の秋に開催いたします。多くの皆様の御参加をお

協力を宜しくお願い申し上げます。

結びに東京鰐陵会の益々のご発展と会員各位のご健勝と更なるご活躍を心より祈念しまして挨拶と致します。

待ちしております。

学校の方は令和四年度も昨年度、一昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を継続しながらの生活となりました。しかし、今年度は少しづつではあります。従来に近い学校行事を実施出来ました。生徒諸君・先生方の協力の下、「鰐陵総体」、「鰐陵祭」、「強歩大会」の三大行事も行うことができ、また、高校生活最大の行事である二年生の「修学旅行」も従来同様の形に戻し、関西方面へ出かけることができました。

生徒の学習においては、ICTを活用した授業が一層進展を見せました。世界情勢がめまぐるしく変化する中、教育の面においても一昔前は十

年程度かかっていた変化が二、三年で変化するようにになりました。今後も世界は急速にデジタル社会へ転換していくと思われまます。学校教育においても、その変化にしっかりと対応していかなければならない時代になりました。私ども教職員一同、その変化に対応すべく努力して参る所存です。しかしながら、私は、学習の基本は「対面による授業」であると考えています。生徒と教員が向き合い、授業や部活動に取り組むことで、人間関係の醸成やお互いの信頼が生まれるものと信じているからです。デジタル化が進む時代だからこそ、人と人の出会いを大切にしていきたいと思っています。

部活動では、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)において、ボート部男子ダブルスカルで高橋興生君(河南東中出身)・武山慎君(桃生中出身)が全国優勝という快挙を達成してくれました。インターハイにおける優勝は本校の歴史始まって以来です。また、「ヨット部」も出場を果たし、全国の強豪相手に奮闘いたしました。また、学芸部(文

化部)においても、「美術部」、「書道部」、「新聞部」が東京都で開催された全国高等学校総合文化祭に「宮城県代表」として参加しました。「吹奏楽部」も五月に無事「定期演奏会」を新しく南境地区に開館した「マルホンまきあーとテラス」で盛大に開催いたしました。「新聞部」は令和五年八月に鹿児島県で開催予定の全国高等学校総合文化祭に参加

することにしております。進学面では、令和四年三月卒業生は九十一名が国公立大学に合格いたしました。学習する環境が難しかった時期においても、コツコツと努力を重ねてきた結果ではないかと思っております。令和五年三月卒業生にも是非、続いてほしいと願っております。創立百年を迎えた石巻高校に根付く「質実剛健 進取獨

創 自ら進運を開拓すべし」という生徒心得綱領は、脈々と続く鰐陵生の基本だと感じております。猛スピードで変化していく社会で、鰐陵生は自分のことのみならず日本・世界全体を考えながら未来を切り拓いていってほしいと願っております。次の百年に向けて、我々教職員もその一助になるよう取り組んで参ります。

さて、私事になりますが、令和五年三月末で定年を迎えます。在任中、親しく皆様とお会いできなかったこと、非常に残念に思っております。最後になりますが、改めて東京鰐陵会の皆様の御活躍と、本校教育活動に対する更なる御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

特集。プロローグ

東京鰐陵会は「2020年度総会の中止」、「2021年度の書面総会」、そして「2022年度の再度の総会中止」という事態となりました。そのような中で会報誌は「世代を越えて集う東京鰐陵会を目指して」前号に続き「交流特集号」としました。具体的に

的には、「米寿・喜寿に寄せて」、「会員と共に」、「母校は今」の3本の特集を柱に編集しました。

特集1「米寿・喜寿に寄せて」

令和5年開催の第30回東京鰐陵会総会で実施される「米寿・喜寿のお祝い」の対象回

生代表有志からご寄稿を頂きました(今回の総会ではリアル総会が開催出来なかった回生もお祝いの対象にする予定にしております)。米寿のお祝いの対象回生は23回生・24回生・25回生・26回生、喜寿のお祝いの対象回生は34回生・35回生・36回生・37回生になります。寄稿頂いた有志の方は左記の通りです。

- ・23回生・亀山兵吉氏『若者よ!失敗を恐れるな!』
- ・24回生・高山研造氏『故郷への思いと感謝』
- ・25回生・阿部 剛氏『米寿に寄せて』
- ・26回生・浅野貞夫氏『汽車通の最後の一年生とし』
- ・34回生・千葉保宗氏『喜寿から傘寿へ』

特集2「会員と共に」

今回は「恩師からのメッセージ」ということで6名の恩師の先生からご寄稿頂きました。

- ・市橋功先生『吾こそは日本一の体育教師なり!』
- ・清水志郎先生『思い出すままに』
- ・菅原祐輔先生『ワングル部あれこれ』
- ・小山功先生『鰐陵歌を大声で歌わせていただいた』
- ・平居高志先生『石巻高校の思い出』
- ・小野寺智先生『鰐陵今昔』

特集3「母校は今」

そして「会員からのお便り」では、お便りを頂いた方々からコロナ過での近況、等の熱い想いが伝わってきます。

コロナを克服していく姿をはじめとして石巻高校の近況について鰐陵同窓会の二階堂守宏事務局長(57回生)からご寄稿して頂きました。学校行事として「教室での入学式」、「総体壮行式」、「体育祭」、「強歩大会」、「修学旅行」、「卒業式」、「部活動の活躍」、等の報告を頂きました。また大学合格情報も途中報告頂きました。そして「百周年記念事業の進捗状況」等の報告がありました。是非ともご覧ください。

特集1 第30回総会記念

米寿・喜寿に寄せて

東京鰐陵会では総会の場合、米寿・喜寿の対象回生の出席者に「米寿・喜寿のお祝い」として記念品を贈呈してきました。新型コロナウイルスの為に令和2年から令和4年までの間、東京鰐陵会総会はリアルで開催出来ずに記念品の贈呈はできない状態が続いております。

令和5年は久しぶりにリアル総会を開催する予定です。今回の総会ではリアル総会が開催出来ずに記念品をお渡しできなかった回生の方々も対象として記念品を贈呈することにいたしました(米寿のお祝いの対象回生は23回生・24回生・25回生・26回生、喜寿

のお祝いの対象回生は34回生・35回生・36回生・37回生になります)。

ここに改めまして米寿・喜寿の諸先輩の方々に心よりお祝い申し上げますとともに、これからのご健勝をお祈り致します。

本特集は米寿・喜寿を記念して対象回生の代表者有志の方に寄稿いただきました。

テーマも多岐にわたる後輩の方々には今後への示唆に富んだ内容となっておりますので是非とも一読いただきますようお願い致します。

また対象回生の方々には是非とも第30回記念総会への出席をお願い申し上げます。

若者よ！失敗を恐れるな！

亀山兵吉(23回生)

人は誰でも幸せを願い、良かれと思って行った決断が、

時としてとんでもない不運の切符を掴むことがあるのです。

年の瀬も近づいた寒い朝、アパートのドアをトントンと

叩いて「裁判所から参りました執行官です。お宅の財産を

差し押さえに来ました。」という声です。

財産と言われてもアパート住まいの我が家にはろくなものがないので「どうぞ」と招き入れたところ、ある自動車

会社に対する手形不履行によるものとわかりました。

執行官は、タンスや柱時計、茶卓などにペタペタと差し押さえるの紙を貼って「略式競売にしたいので誰か知り合いの方を呼んでください」と言うので、友人のH君に連絡して買い戻してもらいました。

その年の大晦日、家主が家賃の集金に来て、扉をトントンと叩く音が聞こえます。家内や子どもを口を押さえて「シート、声を立てないで」と居留守を使いました。

翌元日の朝、家内が子どもを連れて散歩に出かけたのですが、帰宅するなり「お父さん、道端で五百円札を拾ったの。きつと神様のお恵みよ。おもちとミカンを買ってきたわ。」と大喜びでした。

昭和40年、33歳で15年勤めた税務署を辞めて事業に失敗したのが発端です。倒産してからというもの、それはそれは、無収入の苦しい日々が続きました。

このどん底の生活を家内が支えてくれ



吉川ロータリークラブ例会での会長挨拶(1997年6月5日)



行政書士の「無料困りごと相談」に同僚と参加



喜寿を迎えて石巻・東京合同観光旅行(鎌倉・江の島・横浜中華街巡り)

たのです。中古のタイプライターを見つけてきて、近所の会計事務所の書類作成で稼いでくれました。昭和45年、その家内の仕事が縁となって、製麺会社の社長さんとの出会いがあり、思いもよらないその会社の新設工場の建設と運営を任せられ、工場長に迎えていただきました。

心機一転、新工場の仕事に全力投球をしてようやく生活が安定した矢先、家内が48歳の若さで倒れ帰らぬ人となってしまいました。

62歳で定年退職してからは、行政書士を開業し、書士会の理事を仰せつかったり、吉川ロータリークラブで活動したりと、少しばかり社会への恩返しが出来たのではないかと思います。

また、私が喜寿・米寿・卒寿と齢を重ねる中で世界から頂いたのは不運の切符ばかりではありません。

喜寿を迎えて、石巻と東京の同窓会が合同で鎌倉で開催されました。それはそれは懐かしさと喜びに溢れる会合となりました。

思えば、数々の苦しみや悲しみを体験したからこそ、他人に無関心であった私が、人に優しく接することが出来るようになったのですから。

これからの人生を生きる若者の諸君に訴えたい。「若者よ！失敗を恐れるな！」

「失敗の数だけ君は他人に優しくなれるのだ！」

故郷への思いと感謝

高山研造(24回生)

今日は令和5年3月11日。我々にとって忘れてはいけな
い日であります。テレビは震
災各地で催される慰霊の行事
を放映しています。私も帰省
の折にはよく日和山公園を訪
れ、被災された方々の遺霊に
鎮魂と哀悼の誠を捧げること
にしています。

私は旧制石巻中学の最後
の卒業生で、我々は中学・高
校と6年間も在籍しました。
従って生徒間の親睦と結束は
固いものがありました。

思い返すと、中学1年の時
など、最上級の5年生が大変
におつかない存在でした。よく
東体操場(?)に集められて応
援歌の練習というしごき(実
際は愛のムチ)があり、今でも
指導に当たった先輩方の顔が懐
かしく思い出されます。

私は電車通学で、実家から
最寄駅である陸前小野駅ま
で約7・5km、石巻駅からは
石高まで約1・5kmあります。
毎日朝3時半起床、4時半出
発、6時26分の始発電車に乗
り、6年間通学し1日も休み
ませんでした。

後年、特に通学途上(往復

約18km徒歩通学)で何かと激

励の言葉を下さった、今は亡き
あの顔この顔が浮かび、感謝の
気持ちで胸が熱くなります。

その後上京し、大学を出て
社会の荒波に遭遇したが、そ
の都度、昔中学・高校を通じ
て歩みに歩いて、その間に学ん
だことがどれ程身の扶けになら
たかが思われ、改めて見守って
下さった方々に対し、こみ上げ
る懐かしさと有り難さを痛感
したことでした。

私は現在神奈川県伊勢原市
に住んでいます。兄弟姉妹が
沢山おり親族の冠婚葬祭で帰
省する機会も多く、その都度
肉親から何らかの生きる力を
貰い老後を生きる糧となってい
ます。

私も間もなく満90歳。先月
弟の葬儀でひさしぶりに帰省
しましたが、仙台駅で新幹線
を下りた途端に遠い学生時代
にいつも感じた故郷の匂いに起
因する懐かしさによる私特有
の血の逆流する感情に、しば
し立ち止まったことでした。こ
れは今後さらに生き延びて何
かをせよとの自分への励ましと
考えることにしました。従って

今後は変転極まりない内外の
諸状況の行末をこの目で確か
め、あの世で待つ諸先輩に報告
すべきと考えました。それにつ
けても健康あつてのことです。

私は出来るだけ医療に頼ら
ず健康の自己管理に努め、迫
り来るボケの進行防止を兼
ねて現在も続けているゴルフ・
ウォーキング・夜間の防犯パト
ロール・草取り等の自治会活

米寿に寄せて

阿部 剛(25回生)

今回米寿を迎えた会員に、
何かひと言との依頼があつた時、
私も88年この世に生かされてい
たかと驚き、同時に自分自身
を褒めてやりたいと思いました。

私達は東京オリピックの準
備期間から始まり、高度経済
成長期を経験した世代です。
日本の政治経済の中心の東京
で仕事をしたいと思う一青年
が上京し、理工系の大学を経
て、その業界に飛び込みまし
た。仕事は面白く、楽しく、張り
合いのある毎日を過ごした記
憶があります。現場は夜勤も
多く、月に一度ぐらいの休みが
当たり前の生活でした。
70歳で仕事から離れ、その後
は大学時代や故郷の仲間と過

動等の社会参加を今後とも継
続する心積りです。

しかし90歳は何が起きても
不思議ではないので、あまり無
理はせず若い人の邪魔をしな
いで、気持を前向きに、絶え
ず物事に関心を持って世の中
の推移を見守りながら生きよ
うと思う昨今です。

校友諸兄のご健勝を祈念し
て止みません。

ごすことを心掛けました。その
一つにゴルフがあります。一番の
思い出は鰐陵出身仲間とのゴル
フ。みんな一緒に富士御殿場ゴ
ルフクラブに入会し、毎週揃っ
てゴルフを楽しみました。メン
バーは残念ながら故人となっ
た青沼、坂本、鈴木磐男、志
野諸君と、今も元気な佐々木
中里、高橋清記諸兄と私の8
人でした。時には、日野市にあ
る鈴木君行きつけの寿司屋で
反省会?楽しいひと時で懐かし
い思い出です。

また、毎年、石巻・仙台組
との交流戦も計画し、中間地
点の白河付近で1泊し、温泉
に入り、昔話に花を咲かせな
がらのゴルフも貴重な思い出に
なっています。

なっています。

私のもう一つの楽しみは、プロ
野球の観戦です。子供の頃か
らの阪神ファン。関西でないの
に?とよく言われますが、石
巻には阪神との深い縁があるの
です。昔、阪神に在籍していた
七色の変化球を投げる投手と
して活躍した「若林忠志」選手。
石巻に居住し、太平洋戦争終
戦後、水押球場を作り、日和
クラブチームを立ち上げたり、
いち早く石巻の復興に貢献し
た方なのです。それが縁で、今
でも熱烈的な阪神ファンを自認
しています。シーズン中は球場
観戦によく足を運びましたが、
最近ではコロナ禍もあり、テレビ
観戦が多くなっています。

毎年2月、沖縄での春の
キャンプに行くのが楽しみで
したが、コロナ禍で行かれず、
2019年以来久しぶりに今
年行くことができ、歩けるか
な?いささか不安もありまし
たが、何とか楽しい一週間を過
ごしてきました。

これからも健康に留意し、数
少なくなつた仲間を大切に、趣
味の囲碁を楽しみ、散歩(戌年
生まれで犬の散歩)をして、白
寿を迎えるまで元気に過ごし
たいと念じています。

「汽車通」の最後の一年生として

浅野貞夫(26回生)

2歳上の兄の後を追って浦中同期の8人と石高に入学した私は、国鉄石巻線が蒸気機関車で小牛田―女川間を走っていた最後の「汽車通生」だった。涌谷と前谷地の間のトンネルをくぐる何秒かに煤煙と煤粉を浴びて、上着もシャツも頭も点々と黒くなり、電車通の級友に笑われながら懸命にハンカチで拭ったことを思い出す。

クラスで隣席の山浦君は仙石線の矢本の先から乗る「電車組」で、しかもパルプ会社勤務の父上と北海道から転勤された由で、標準語をしゃべり、都会っ子らしく私の涌谷弁を直してくれた。例えば「ンダガラシャ」は「そうだからね」と言った方が良いというふうにし。

翌年ディーゼル車が導入されたときは嬉しかった。通勤通学者で満席ではあったが、デッキで立ち通しでゆくよりは遙かに快適に本が読めた。「都会人・石中卒業生」の井上英治、阿部想一郎も涌谷城の桜を観に来てくれるようになり、石巻女学校卒の母は

喜んで石巻の老舗の様子を訊ねたりして、歓迎のご馳走を作ってくれた。

あの頃よく出た言葉に「松沢病院行き」というのがあった。規格外れの言動でまわりの「ヒンシユク」を買う奴をなじるときに使った。精神科もしくは「氣ちがい病院」入りという意味だった。同級生の熊本亨は汽車通生の中で最も野人派で、教師のあげ足をとって笑わせたり、叱られてもケロリとして次のひとことでもまた叱られたりしていた。「あいつは松沢病院行きだな」と皆で笑った。ところがなんと本当に松沢病院に行ったのだ。しかも院長として。院長付の黒塗りの自動車で我が家に来て「今度は同じ烏山仲間だな」と言った。奥さんは飯野川の同級生らしく、「お近くで楽しみですよ」と言ってくれた。その後は神奈川や都内の公立病院の院長を歴任したが先に逝ってしまった。ボケが来る前に、この頭を診てもらいたかったなあ。「クマちゃん!!」。

喜寿から傘寿へ

千葉保宗(34回生)

2020年(令和2年)我々34回生は、喜寿を迎え東京鰐陵会の総会に参加を兼ねてお祝いの会を計画していました。

年明け早々からコロナウイルスの急激な蔓延により、社会活動が厳しく制限され、不要不急の外出や宴会等の自粛などの通達が出ていたのは、皆さんご承知のとおりです。コロナウイルスに対するワクチンも無く、治療薬もない状況だったので、社会は一辺にどん底へ突き落とされたようになりました。

この様な時に、家内の持病が悪化し、救急車を呼んだものの受け入れる病院が決まりませんでした。やっと見つかった病院ではコロナを疑われ、コロナ病棟に入院させられ、面会は一切できず、電話で担当医に病状を聞く事しかできませんでした。PCR検査の結果コロナでない事がわかり、やっと一般病棟へ移れましたが、薬石効なく死亡しました。葬儀を行うにも斎場は人数制限され、家族だけの野辺送りになりました。コロナウイルスに汚染され

た3年間は、自分の身を守る

とは分かっていても高齢者ゆえの行動規制など非常に窮屈な状況でした。

この間、体力の低下や認知症になりたくなかったので、ウォーキングや歌をうたったり知人と長電話して過ごした次第です。

コロナ患者の減少により、4年ぶりに東京鰐陵会の総会が開催されることになり、

喜寿を迎えて

菊地 潔(36回生)

鰐陵36回生は戦後77年の年に77歳(喜寿)とは数字に何か縁があるのかと思いついて見ました。還暦から3回目の祝い事ではありますが、元気で頑張っている方、残念ながら鬼籍に入られた方など同輩の便りも多くなり、残念でありませんが人生それぞれの運命を感じます。

そこで明るい元気な話をひとつ。

77歳の今年の1月、私の母校石巻市立湊中学校を訪問する機会がありました。きっかけは東京湊中会(主に関東地

34回生の参加者による喜寿の祝いならぬ傘寿(80歳)の祝いをしたいと思つています。

加齢とともに体力の低下が起きてきますがこれに負けずに何とか維持を図り、また認知症にならないように脳トレを行っていきたいと思います。毎年元気で総会にて同期生と会えたらいいなと思つています。

目標「米寿まで毎年会いましょう」

方在住の方々の同窓会)では震災後、母校に寄付を行ったりして来ましたが、他のことで何か役に立つ事があるので、幹事会で話が出て幹事の和田さん(石女出身)の発案・企画で「出前授業」をやつてはとの話から現在、運動会などで披露している「湊中ソーラン踊り」をプロの目から見て監修指導してバージョンアップを図る事を計画。湊中学校の後藤校長先生を始め保護者の方々の賛同も得て授業を行う事になりました。そこで、77歳の現在も芸能



新生湊中ソーラン踊り

界に於いて現役で活躍中の振付師三浦亨君（鰐陵36回生）にお願いしたところ、快く受けいただき実施の運びとなりました。

三浦亨君の77歳とは思えないほどの活動的な指導に子供たちや先生も喜んでくれました。バージョンアップした踊りを「新生湊中ソーラン踊り」として運動会などで発表する予定だそうです。又、修学旅行の時、柴又帝釈天で奉納踊りをする予定と聞いております。

出前授業に同行して感じた事は、小さな踊りからアレンジを重ね、石巻地方を代表する踊りになり全国的に広がる踊りになって行ければと思っております。

数字の77の縁では現役の時、七十七銀行の電算センターの新築工事に携わった時、鰐陵の先輩で七十七銀行の高瀬さん、鹿島建設の館さんには大変お世話になった事を思い出します。又、仙台の鰐陵36回生の方々にもその節は大変お世話になりました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

人と会うのも何かの縁、東

喜寿になる

遠藤信雄(37回生)

70歳の春、この桜をあと10回見ると80歳になると突然気がつき、四季の変化に敏感になったように思います。散歩にはカメラ、双眼鏡、虫眼鏡を用意し、遠くの鳥も近くの虫も花もなるべく詳しく見て、自然の造化の不思議に今更ながら感心しています。

1965年、石高に入学すると英語がべらべらな同級生がいることに驚き、世の中にはできる人間がいるものだと感心しました。英語の先生からは英語には読み、書きのほかに、聞く、話すがあることを学びました。この歳になってもいろいろな国の人と仕事ができるのも先生に教わった

京鰐陵会の36回生の出席が少ない事を心配しております。いつも出席者は阿部長光君、阿部禧一君、三浦亨君です。元氣と時間があればご同輩の出席を願っております。

最後に今年、創立100年（百寿・紀寿）を迎える石巻高等学校と東京鰐陵会の益々の発展を祈念いたします。

ことがきっかけだと思っております。

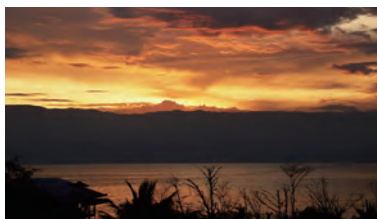
また、指名を受けてから黒板の前で時間をかけて答えを考えることを許してくれた数学の先生には、問題に直面したときには論理的に推論することを教えていただいたものと感謝しています。漢文の先生には白話で漢文を読

んでいただきました。その影響ででしょうか、時々漢詩を読み、そのリズムを楽しんでいます。

この寄稿、ブジュンブラで書いています。ブジュンブラはアフリカの中ほど、タンガ



セネガルショービン(2023年3月4日朝)



ホテルのレストランから(2023年3月4日)

ニカ湖の北端にある町です。2011年、始めてここに来てから11年余り、何度も訪れています。アフリカの小国の紛争とコロナ禍、異常気象に翻弄され、仕事がここまで長引くとは夢にも思っておりませんでした。常駐監理者の思わぬ交代があり、そのつなぎでここにあります。

月曜日から土曜日まで4時起き、日本からのメールに返信などしてから朝食をとり、現場事務所に出かけます。午後5時まで働き、ホテルに戻り洗濯、シャワー、食事、歯を磨いて眠るという単純な生活です。

朝食はタンガニカ湖のほとりです。いろいろな水鳥が来るのが楽しみです。夕食はコンゴ民主共和国側の山並みが闇に消えていくの

を見ながら冷たいビールを飲むのが楽しみです。

来月喜寿になります。傘寿まで残り3年、自然観察を楽しみ、時々旅でもしながら生活して行きたいと思っております。そのためにも炭水化物の取り過ぎに注意しているものをお食べると、散歩程度の運動を欠かさないことで健康と体力の維持をはかっていきたいと思っております。

同世代の皆様、たまには集まって飲みましょう。

2023年3月5日 ブルンジ、ブジュンブラにて。



過去の総会での米寿・喜寿



特集2 会員と共に 恩師からのメッセー

今回は懐かしい恩師の方々からメッセーを頂きました。ご寄稿頂いた恩師の先生方に感謝とともに心から御礼申し上げます。

今回は左記の通り6名の先生にご寄稿頂きました。

・市橋功先生『吾こそは日本一の体育教師なり!』

・清水志郎先生『思い出すま
まに』

・菅原祐輔先生『ワングル部
あれこれ』

・小山功先生『鰐陵歌を大声
で歌わせていただいた』

・平居高志先生『石巻高校の
思い出』

・小野寺智先生『鰐陵今昔』
是非、ご一読ください。

吾こそは日本一の体育教師なり!

市橋 功

私は、昭和36年(1961)37年、38年度の3年間、石巻高校に保健体育科の教員として勤務したものです。今から60余年も昔のことです。20歳代の後半、独身生活から結婚へ—という人生生気旺盛な頃でした。前任校が石巻女子高で4年間勤務した後の2番目の転任校。保体という教科の指導上、男女の違いがありますので職務内容はすべて初体験であり、未知未熟なヤロコ先生でした。

書館があり、私はその前に立ち、下に居並ぶ50名の生徒一群に号令を掛ける。あの「鰐陵体操」の一斉指導を展開。50分の全部ではないが授業の前と後にはその整列隊形で。私は上下白の体育着。清潔な身だしなみでなければいけない。下宿生活。週末には、あの頃の洗濯板で石鹸ゴシゴシ洗い、物干しをし、極力アイロン掛けをして折目をつけて、翌週月曜日の授業に臨むという、週課、すべて自己完結の職業生活、日常生活でした。一週間サイクルのきちんとした生活リズムだった。

生徒達は、実に素直で純朴な16・17・18歳の私の弟分のような諸君で、この、あんなちゃん先生への号令によく従ってくれた。張り合いのあるめんこく楽しい毎時間だった。

(あの位置)に立つと、眼前には雲雀野海岸・仙台湾・太平洋、左手は小竹の岬から田代島・網地島・牡鹿半島黒崎岬までが、右手は矢本・松島方面が全景一幅の造化の妙。応援歌に、「……西に松島東に金華霊山遠く見ゆ……」とあるがその情景描写の文言と一体一致の感興だった。生徒側の立ち位置からはわからないうが、私は右特権独り占めの優越感・至福感にあった。若き私は、こんな立地・風光・景観・抜群の教育環境に恵まれた石巻高校に其のようにして勤務・指導に当たっていることを、恵まれ過ぎた幸せな保体科教員なんだ——、と自分を誇り称え自負し陶醉し、と自信・感謝・奮励の思いで、毎時間授業をおえる度に自分にそう言い聞かせ自己奨励したことだった。

体育館でバレーボール(当時は9人制)もしたしドッチボールも愉快に笑った。プールで水泳も、柔道場では白帯姿で指導し、「受け身に始まって受け身で終わる」の安全柔道を旨とした。今でもそれでよかつたと思っている。ラグビーもやった。ラインパス・スローイン・ノックオン・スクラムなどの部分練習をし、試合形式でもやったが、阿部良とか阿部精一が足の速かつたことを60年以上経た今でも楽しく憶えている。鰐陵原頭に立てるわが青年体育教師像だ。顧みて「幸せ」だった。

教員の仕事には教科指導以外に、「校務分掌」といって学級運営の分担業務がいろいろある。当時の石巻高校では、定時制・通信制の課程、分校(女川校)の兼任、寮(北辰寮)の舎監、校外活動(部活)の顧問の任、校外的には高体連石巻支部の渉外、校外指導連盟(学警連と言った)、PTA、同窓会、生徒会等々の各係を分担するなど管掌任務が多く、近年は教員の勤務態様等が問われていくことです。運動会、遠足・修学旅行等の学校行事の立案・下見・引率の任。経

験を積んで覚え鍛えられていくことです。

鰐陵同窓会涌谷支部の恒例行事は「肝試し」。全く何も知らされていない私が学校側代表(校長代理)として出張命令で右に派遣され、地元OB連の歓迎を受け、手厚い接待を受けた。会場は山路良一(35回生)の見龍寺だったが、散々手荒く持てなされ、つまり飲まされ、然る後深夜境内墓地に連れて行かれ、そこに同年同地区から入学した一年生を誘い出して、奇行蛮行の手荒な肝試しを波状的に見舞うのだった。私も騙されて此処に来たようなものだ。同夜は本堂に雑魚寝。地方名門男子高の伝統行事。和尚の山路君は今では78歳なはず。高僧になつていく。

石高は男女共学になつたそう、今としてはナンセンス・アナクロニズム・パワハラ(の)行事。古き良き時代の男子高校だったなあ—と懐古すること。

思い出を手繰っているうちに、石高は教師陣も錚々たる方々が揃っていた。そして引き締まっていた。職員室の空気が張り詰めるものを感じた。

若造の私は入室の度に緊張感を覚えた。しかし放課後の直室では囲碁を嗜む先生方が何局もあり、山本林校長も和氣に愉しんでおられた。

私はグラウンドで陸上競技部員と交流した。大分市でのインターハイにも遠征した。4×200mリレー。及川、橋本、阿部、真野のメンバー。部員にはあの芥川賞の辺見庸(秀逸)もいたのだ。当時はそれ程目立たなかったが、周知の通り。男の子は本当にすばらしいこと。

私は若くして石巻高校に奉職できたことを無上の誇りに思っています。親元の仙台に早

思い出すままに

清水志郎

私は1971年(昭和46年)4月から、1990年(平成2年)3月まで20年間、数学の教師として石巻高等学校にお世話になりました。長い間、同校に居たのはひとえに生徒達がすばらしく、共に学問を、一緒に課外活動する事が楽しく、面白かったからだと思っっています。今、鰐陵を離れて33年ばかりになり、記憶も定かでなくなっているの

く戻りたい希望でしたが、人事に厚遇を得て石高には僅か3年間の在勤だったが、俺はこの学校に行っても勤まるぞ!という自信と矜持を募らせたことだ。

以上、わが身、歩み来し任地石巻時代を回想し臆面なく喋り書き、肝胆相照らすーの思いでいる。当時の生徒諸君にわが青春期(記)を、今年「卒寿」(数え年90歳)となり健康寿命でいることを伝えた。冗長に私事私情を弄し失礼であったが、想い出していただければ幸甚です。各位のご活躍ご発展を切に祈ります。

思いのままを書いてみたいと思います。

昭和46年に赴任して、第2学年(45回生)の学年付き副担任となり、主に2学年の授業を受け持ちました。当時、数学は週7時間あり、2クラスを一つにして、各学期とも中間、期末テストごとに成績で上位の者、下位の者となり、毎回授業のクラス入れ替えがありました。今ではとて

も考えられない事だと思えます。そんな授業の中で、あるクラスで教卓の前のすぐ前に座っている生徒でノートも取らず、ただ授業を聞いているだけの生徒が居ました。不審に思っただけを見せられてもらうと、彼は春休み中に2年の教科書のほぼ総ての内容の予習を終わっていたようだったのです。さすが石高と思いを新たにすることを思い出します。彼は陸上部でもかなり活躍しました。正に文武両道と感心しました。

この年は前から出ていた生徒たちからの服装の自由化の提案が具体的に動いた年でした。詳細は現在の生徒手帳に記載されています。生徒達が生徒会を中心に学校側と話し合いを持ち長い時間をかけ、施行期間を持ち実施し、最終的に、生徒の良識ある判断にゆだねて自由にするということになった。お互いの信頼関係を大切にするということ、服装は「場」に応じた端正な服装であるよう心掛ける事になった。校則の一つ、自主自律である。

私は担任の時、授業の時に常々、話した事の一つに、3

年間の高校生活で何を学び何をしたいのかを問う中で小学校・中学校は基礎で、今は将来の人生の土台と成り、目に見えなくなる部分を作るのに時間を使っているのです。土台がしっかりしないとその上に立つものはどうなるかを考えることが大切であると話し、土台にはどんな材料が使われているか、だから今、学ぶものに無駄なものは殆ど無い。自分の不得意な教科、友人との交わり、社会との係わりなどを含めて、内なるものを磨くことに心がけることが重要であると話したことが記憶

に残っています。当時、数学科の教師は3年間持ち上がりが多く、私は47回生(昭和47年入学)、50回生、53回生、65回生を担当し、生徒達から多くのことを学ばせて頂きました。鰐陵体育祭、文化祭、マラソン大会、弁論大会等どの行事も自主的に企画、運営し、どの回生も多才な生徒が居て、今各地で活躍している様子を知るたびに誇らしい気持ちになります。結びに東京鰐陵会の益々の発展と会員各位のご健勝とご活躍を心よりお祈り致します。

ワンゲル部 あれこれ

菅原祐輔

私が石高に赴任してワンゲル部を拝命して間もなく、部員から部室に呼び出しを受ける。部員が並んで坐っていて各自が自己紹介をしてくれる。私がワンゲルフォーゲルと登山とはどう違うの?と聞いたら部長がそんなことはどうでもよい、先生はわれらの後に付いて来ればよいとのこと。

ワンゲル憲章なるものがあった、それには教師の付き添いのない山行はダメとあ

るのです。でもOB引率の隠密山行はよくあったようです。部には年間山行計画ができていて、部長・庶務・会計・装備・食糧・医療等の諸係分担が決められていました。私は登山に関してはズブの素人、ただハアと頭を下げるだけです。

ある年の県総体閉会式、成績発表がありました。その直後に石高選手らが「モウヤーマタ」「一位以外は何位であつてもビリと同じダー」

と憤怒を込めて力んでいました。石高は二位なのです。

気力、体力、山中生活の諸行動は万全、選手らは一位を自認していました。一緒に行動していた各校の顧問連中の下馬評も石高一位でした。「審判団は狂った」、選手も私も腹の中ではそう思いました。

その年のインターハイは鹿児島県、山岳競技は屋久島です。一位は屋久島大会へ、二位は東北大会への出場です。宮城県山岳部会の規定です。石高は二位を放棄しました。山岳部会の役員は慌てました。即役員会を開いて東北大会出場権は別途大会を開いて決めるのです。県規定を変更しました。石高がそうさせたのです。

石巻高等学校最優秀賞！の発表。高等学校理科研究発表会東北大会の会場です。ワングル部が野蒜の海岸の調査をして発表したのです。「野蒜の海岸は隆起している」それが世間の風評でした。物知り顔の大ホラ吹きは「太平洋側は隆起、日本海側は沈降」などともいつているのです。その根拠は、①海水面で削られたと思われる崖の波食形

(ノッチ)が鷺の巣岩の上部にある。②古老の話では、鷺の巣岩はかつて海辺にあり、半分ほど海水に浸っていた。今は海辺からだいぶ離れた陸地内にあるのです。その隆起説を否定するべく取り組んだのがワングル部なのです。ワングル部のお家芸、先輩からの隠密指導で得た岩登り、お猿さん並みの身軽さで磐崖を登りノッチに赤布を付け、下から覗いて仰角を測って高さを出すのです。その高さだけ鷺の巣岩は隆起したと思うのです。

唐笠の庇状になっている軽石質凝灰岩の出っ張り、ノッチは海水面で浸食(海食)されたものと思われていました。が、綿密に観察すると浸食の初期にはそれもあつただろうが、それだけではなくこの凝灰岩の特徴的な風化浸食(風食)であることが解る。だからノッチの高低は海面の昇降、地盤の隆起・沈降には無関係なのです。古老の話では昔、鷺の巣岩の根元に穴があつた。そこに波浪が打ち寄せられていたとのこと。今はその穴は見当たらないのです。ワングルで正月休みの厳冬期にその

穴を捜せ、そして掘れの土方作業が砂浜のテント住い、二泊三日をかけて実施する。見つけた穴の周囲の砂を深さ3mほど掘ったら海水が湧く。その水面は現海面と同一レベル。鷺の巣岩は隆起していないの証明。岩は砂が溜まって陸地化しただけ。風評は誤りでした。

石高OBの野蒜小学校校長先生には鷺の巣岩は景勝地なので、穴掘りの許可を鳴瀬町及び、文化財保護課からの許可を得てもらいました。テント生活なので炊飯用の水を頂

鰐陵歌を大声で歌わせていただいた

小山 功

石高定時制野球部は、神宮大会に通算8回も出場しています。「鰐陵歌を大声で歌わせていただいた。本当にありがとうございます」との言葉がとうございましたとの言葉は、試合終了、ダグアウトから出てくる選手を出迎えていただいた東京鰐陵会のみなさんからいただいた感謝と励ましの言葉です。45年たった今でも鮮明に思い出されます。さらにカンパを関谷監督の手に握らせていました。定時制生徒の活躍が、石巻を超え

いた近くの民家の主人は石高OBの元鳴瀬町教育委員長さん、大正時代の鷺の巣岩の写真があるというので見学させていただきました。岩は海水に浸っていました。

付・本調査は宮城県高校理科研究会で優秀賞、日本学生科学賞・宮城県コンクールで優秀賞、石巻市長賞を受賞しています。詳細の報告は昭和57年度石高生徒会誌「鰐陵」No. 21号に掲載しています。

ある年の夏山合宿では飯豊山系梅花皮沢大雪渓で滑落老人を救助、小国警察署から感

て東京鰐陵会の皆さんを励ましていることに感動しました。

軟式野球部は、県大会、福島との代表決定戦で惜しくも全国大会を逃していました。が、1980年代後半から定時制卒業生の関谷茂さん(関谷工務店)を監督に迎えてから、全国大会に駒を進める実力をつけてきました。遠征費は、生徒が100名前後でその確保が課題でした。夏休みになると保護者・雇用主、教職員で構成する定時制後援会

謝状を受賞しています。

またある年のインターハイの折、県代表は石高と某女子高。初日の旅館泊、可愛い元気凛刺の女子高生と交流したら?と言ったら、石高生はノー!! 彼女らと仲良くなるのが怖い! 責任感が強い! ヤル気 ヤラナイ気が強い! 感心です。良い子に私は恵まれました。

私は10数年間石高にお世話になった地学の教師です。ワングル部の顧問です。インターハイに数度出場、成績は毎回中の上程度でした。



第25回全国高等学校定時制・通信制軟式野球大会
(昭和53年 8月12日~16日 神宮球場にて)



天狗森(花山)にて(2002年1月) 後列左2が平居



山伏岳(泥湯～秋の宮)(2001年11月) 左端が平居



刈田岳(2003年) 後列右端(赤)が平居

がちな生徒と格闘する疲れ
る行事の代表格です。ところが、石高の修学旅行はすばら
しかった。生徒は熱心に見学
し、博物館では、全ての解説
を読もうとするので、列がな
かなか前に進まない、という
ことすら起こりました。知的
水準の高い生徒が古都を巡る
ところなるんだ、という感動
と、やつてよかったという強
い実感を持つことができました。

もう一つはマラソン大会で
す。当初は、曾波神公園から
天王橋の手前を往復する平坦
な8km弱のコースで実施され
ていました。「質実剛健」の石
高として情けない、安全でな
おかつ地域住民の邪魔になら
ないロングコースはないもの
だろうか、と検討が始まりま
した。ワングル部の諸君と石
巻界隈の里山をも歩いてい
た私は、井内水門から雄勝峠
を越えて女川まで、約20kmの
コースを提案し、これが採用
されました。大会は天候にも
恵まれ、ゴールした者から帰
宅してよいというルールの効
果もあって、生徒の動きはよ
く、運営もスムーズに行われ
て、よい大会になりました。



私は現在、石巻工業高校に
勤務しています。「定年」とは
言え、春以降も再任用教諭と
して、今までと同様の生活が
続きます。「恩師」というので
はなく、同じ地域の仲間とし
て、今後もお付き合いいただ
けると幸いです。

石巻高校の思い出

平居高志

石高には1994年から
9年間勤務しました。今春で
「定年」となる私にとって、34
年間の教員生活の中で、最も
長く勤務した学校となりました。
31歳から40歳まで、心身
ともに一番元気だった時期に、

昭和の香りが残る男子校時代
の石高に勤務できたことは、
私にとって最高の幸せでし
た。どの学年にも授業がある
国語科教員でありながら、4
回も卒業学年で担任ができた
ことは幸運でしたし、ヨット

部、ワングル部顧問としても
貴重な経験ができました。生
徒、保護者、同僚にも本当に
恵まれたと思います。

在任中で特筆すべきことは、
なんとと言っても修学旅行の復
活です。それ以前、石高では
長く修学旅行が行われていま
せんでした。生徒、いや、そ
れ以上に保護者の思いに押し
られる形で、学校は2001年
度からの復活を決定。復活初
年度、たまたま2学年の担任
をしていた私は、担当者とし
て最前線で関わることになり
ました。

部、ワングル部顧問として
貴重な経験ができました。生
徒、保護者、同僚にも本当に
恵まれたと思います。

在任中で特筆すべきことは、
なんとと言っても修学旅行の復
活です。それ以前、石高では
長く修学旅行が行われていま
せんでした。生徒、いや、そ
れ以上に保護者の思いに押し
られる形で、学校は2001年
度からの復活を決定。復活初
年度、たまたま2学年の担任
をしていた私は、担当者とし
て最前線で関わることになり
ました。

鰐陵今昔

利府高等学校 小野寺智(61回生)

東京鰐陵会の皆さま、こんにちは。61回生の小野寺と申します。平成15年4月から平成26年3月まで、母校である石巻高等学校に勤めていました。暫し、11年間の昔話にお付き合いください。

昔話を始める前に、もう少し昔の話から始めます。昭和61年4月、男子校の石高に入学しました。怒号飛び交う対面式、校歌応援歌指導、現在では自粛傾向にありますが、応援団と生徒会執行部の先輩方に対抗するためにクラスが一致団結したのを覚えています。指導が終われば、先輩方のなんと優しいこと。そして、先生方の生徒を大人扱いする態度、良い意味での適当さ、石高が大好きになったのを覚えていきます。中学生の頃から教員志望でしたが、将来石高の教員になりたいと思ったのもこの頃でした。

私が石高に赴任したのは、平成15年4月。ラグビー部の恩師である阿部秀雄先生が3月に御退職になり、その後任としてラグビー部顧問になりました。

当時、石高はまだ男子校でした。男女共学になったのは、平成18年4月からです。男女共学初年度で思い出深いのは、文化祭です。文化祭の出し物として、男子校時代は縦割り合唱がありました。男女共学となり、新たな出し物をクラスで議論した際に、クラスのスバトルを文化祭でやる？できるのか？と不安になりました。たぶん、現在でも文化祭でクラス対抗のダンスを実施しているはずですよ。ちなみに、3年生男子だけの我がクラスは、ひげダンスを制限時間いっぱい使って踊っていました。

平成19年4月に入学した83回生を担任しました。彼らは、学校が好きだったし、高校生活を楽しもうとする意欲がありました。私が石高に在籍していた頃を思い出させる雰囲気がありました。そして、平成22年4月、86回生の学年主任として3年間携わりました。86回生に関しては、東日本大震災の話題に触れざるを得ま

せん。カップ麺を4〜5人で分け合ったこと、雪を集めてお湯にしてパックご飯を食べようとしたこと。もう10年以上経過しているのに、未だに忘れられません。時々「あの時を忘れない」のようなフレーズを見聞しますが、地元の人たちは忘れようがありません。

さて、長々と昔話を書き連ねてきました。最後に一言。どこの高校でも特色ある学校作りが求められています。普通高校ですが、普通の高校ではなく、石高はちよつと癖のある、いわゆるホヤのような校になって欲しいなあとノスタルジーに浸りながらペンを置きます。

●特集記事制作にあたっての御礼

今回恩師の先生方にご寄稿をお願いするにあたって鰐陵同窓会の二階堂事務局長様に先生方への連絡及びご寄稿のご相談をお願いしました。御礼申し上げます。

●訃報について

恩師への連絡を通じてご逝去の情報に接することになりました。ここに訃報をお知らせするとともにご冥福をお祈り申し上げます。(合掌)

氏名	調査結果	在籍期間	担当教科
阿部秀一	逝去(平成20年)	昭和43年～平成14年	数学
石垣 宏	逝去(平成20年)	昭和46年～平成14年	日本史
小畑陽一郎	逝去(平成25年)	昭和40年～平成8年	社会
丹野征一	逝去(平成28年)	昭和50年～平成8年	国語
後藤治夫	逝去(平成29年)	昭和38年～平成元年、平成3年～4年	数学、講師・数学
佐々木昭	逝去(平成29年)	昭和46年～平成7年	主任技師巡視
松本 仁	逝去(平成29年)	昭和46年～平成6年	国語
色川恒夫	逝去(令和3年)	昭和40年～平成8年	国語
佐藤信男	逝去(令和3年)	昭和39年～平成9年	校医
三浦 進	逝去(不明)	昭和39年～平成4年	化学

(敬称略)



《会員からのお便り》近況ハガキ(各回生)

安住重一(20回生)

93歳になりました。今のところ元気です。余生も僅かなれど我が人生に悔いなしとありなん。皆様のご健康を祈ります。(牡鹿町大原中学校・剣道部)

櫻田 巖(21回生)

鰐陵20号に亀山平吉氏(23期)の投稿を見て、交流のあった往時を想起し、熱い思いが湧きました。有難う(バスケットボール部)。

佐々木紀雄(21回生)

(東京都下目黒中学校・バレーボール部・横浜税関監視部)

佐藤允俊(24回生)

27回生・三宅君の計報に愕然



1961年12月 棒振りの辛子巻売り東内海橋上

声もありません。7回生・生

江先生のご指導で24回生・渡辺(旧姓菅原)邦夫と共に、他校の卒業生から羨ましがられる東京鰐陵会になったのは偏に彼の御尽力と感謝・感謝です。24回生の仲間と米寿の総会には是非出席するよう頑張ろうと話合っていました。残念乍ら29回総会は中止。ならば卒寿の総会こそと心身鍛錬していましたが、身体が悲鳴をあげ始めています。卒寿の総会出席できるかなア。最近電車に乗っていません。遠出するのがとても恐ろしく感じています。(旧制中学校・バレーボール部)

阿部 剛(25回生)

コロナ禍に何時までも負け

ではおれんと25回生有志(佐々木君、高橋(清)君、武山君、中里君など)と月1回集って一杯やっています。10月には山梨の石和温泉に1泊で食事をし、昔ばなし

に花を咲かせ楽しいひとときを過ごして来ました。11月には東村山の「志村けん銅像」を見ながら一杯飲むことにしています。25回生は米寿を迎えています。仲間が少しずつ欠けて来ているのが現状です。少しでも長く皆と顔を合せていたので、参加出来る方は歓迎したいと思っています。(石巻中学校・陸上競技部・囲碁)

津田健三(鈴木)(25回生)

自分の会社なので生きている間だけ会社に行っており、88歳と6ヶ月になります。元気で居られるのも、毎日会社に行っているからだと思えます。今は良かったなあと思時もありがたく感謝しております。(二俣中学校・化粧品容器製造業経営)

浅野貞夫(26回生)

(涌谷中学校・合唱部)

及川栄喜(27回生)

(矢本中学校・新聞部)

船田清孝(27回生)

(女川中学校)

徳江 明(27回生)

葉書に絵手紙のようなタッチでイラストを描いては、あらためて難しさを痛感しています。週1回、高齢者の健康維持のため開発された体操をしたり、おしゃべりによる情報交換をしています。一定の効果があると考えています。又、共に支え合う共助のスタンスで、一人暮らしの高齢者を守るボランティア活動は、自分の散歩を兼ねていて、健康保持につながるのです。これからも続けていきたいものです。(石巻中学校)

成澤 良(28回生)

東京鰐陵会は小生にとって励みです。家庭菜園、花壇の手入れに楽しみながら頑張っています。ゴルフは年3回程度、健康維持の為参加しています。皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。(小野中学校・美術部・会社役員・カメラ・ゴルフ・旅行)

守屋晃治(29回生)

(門脇中学校・柔道部)

木村長人(30回生)

体調良好にて相変わらず好き

な事を楽しんでいます。11月久しぶりに田舎参りしてきました。墓参りが主目的ですが、自然散策が楽しみです。(大塩中学校・陸上競技部・総合商社・ゴルフ・楽器演奏)

鈴木賀夫(30回生)

(涌谷中学校・音楽部・民間放送・写真・スキー・旅行)

蜂谷国彦(30回生)

3年程、石巻に帰っております。健康維持のために、年々飛距離は落ちていますが、ゴルフを続けています。旧交を温めることができるように、早く安心して会合ができるようになることを切望しています。(2022・10・5)(住吉中学校・文芸部・会社員・読書・ゴルフ)

松田勝治(30回生)

長年続けて来た会社を今年11月に締めます。40年間の長きに渡り経営して来ました。83才になり体力思考ともども衰えて来ました。この先はのんびりとした生活をすごして行こうと思っています。(石巻中学校・水泳部・総合ダム企画(株)・美術品)

北川洋三(31回生)

今年2月に鍼灸院を退職し、隠居生活に入りました。地域の仲間の方々と毎朝太極拳を楽しんでいます。日中の自由時間は読書と川柳の作句で過ごしています。最近詠んだ一句「ふる里の友の手紙に読みふける」(住吉中学校・日本合成ゴム(株)・鍼灸師・川柳・太極拳)

櫻井勝夫(31回生)

コロナに用心してお陰様で元気に過ごしています。(鳴瀬第一中学校・物理部・不動産管理業・旅行・スポーツ観戦)

桑島 馨(31回生)

現在関東ラグビー協会メディアカルアソシエーションメンバー。(須江中学校・ウエイトリフティング部・歯科医師)

猪俣 斌(32回生)

老いを重ねながらも日常生活を元気に過ごしております。(渡波中学校)

櫻井庸正(32回生)

新型コロナウイルスが3年目を迎えます。新型コロナウイルスが大分浸透してきました。おかげで令和2年3

月より活動休止したスクエア

ダンスもぼちぼち再開に漕ぎつけました。感染拡大が起これるとまた中止、これらの事態をなくすためにはワクチン接種を進めねばなりません(現在私は4回目)。でもワクチンが万能ではなく飲み薬がないと治りません。やはりコロナ対策はゴールが遠いという感が否めません。今年の帰郷で弟の住んでいる東松島に3泊しました。津波で家がすべて無くなったがよく頑張ったのが印象に残りました。この機会にこの町にふるさと納税をしたいと思えます。(涌谷中学校・会社員・囲碁・スクエアダンス)

山内 明(33回生)

相合傘で、元気に日々を捲っております。(河北町大谷地中学校)

木村貴則(33回生)

今年令和4年の4月で80歳を迎えました。これを機に、60歳で会社勤めを辞めて技術士事務所を立ち上げコンサルとISO審査員活動を生業としていましたが、審査員活動は

固定顧客でマンネリ化して来たので区切りとし後進に道を譲ることで辞めにしました。

今後は残りの人生を趣味を楽しむ事に当てます。新たに購入した大画面TVで、好きなスポーツ番組を見るのが楽しみです。

久保文征(34回生)

(住吉中学校・陸上部)

内崎光助(34回生)

現在シルバー人材センターで国分寺市の公園の管理作業を行って居ります。野外の行動ですので、陽の光を浴び、風を受け、様々な人との出会い、又、談笑もあり、健康に大いに役立つて居ります。後2年半の任期もあり、続けて余生を楽しみたいと思っております。(大塩中学校・軟式野球部・読書・ゴルフ)

遠藤信行(35回生)

(女川第一中学校・柔道部)

菊池 潔(36回生)

(湊中学校・テニス部・電気設備・ゴルフ)

遠藤信雄(37回生)

喜||蝶よ、花よ、と。
怒||小かつ少、段々と。
哀||昭和歌謡に涙する。
楽||気配り、減少傾向。
病||右膝関節炎、痛い。
老||視力衰え、読書。
郷||3年越し墓参。
歴||入国拒否、成田で。
書||漢詩人と我歳比較。
業||氣候変動 対 土木。
(住吉中学校・コーラス部・建設コンサルタント)

遠藤順政(37回生)

体調不調続いて、石巻帰省も出来ず苦慮。先日、エンディングノートを購入し、数日かけて記載し安心致しました。まずは平均寿命目指し頑張りたいものです。(渡波中学校・放射線計測・開発・設計技術・カラオケ・散歩)

丹野静也(37回生)

江戸時代大田南畝の狂歌に「生きすぎて 七十五年喰ひつぶす かぎり知られぬ天地(あめつち)の恩」と言うのがあります。私自身もうすぐ喜寿になろうとしていますので何とも感慨深いものがあります。この先、後何年喰ひつ



1956年8月 完全無缺達高齢…祖父木村伊右衛門88歳石巻市蛇田境塚

ぶすかはわかりませんが、少なくとも家族の迷惑にならないように心身共に自立(律)出来る状態で傘寿・米寿を迎えたいと願うこの頃です。皆様暫くお付合いたただければ幸いです。(門脇中学校・柔道部・総合商社・ゴルフ)

山下政志(37回生)

世田谷区より移転、信州の田舎暮らしも7年目を迎えようとしています。車なし、テレビ、冷蔵庫、ガスなしの暮しにもなれて、田舎の住人になりました。ヨーロッパ生活が20年と都会ぐらしを嫌い2017年より古希を機に始めた田舎暮らし、百年家と言われる大正初期の古民家です。ヨーロッパ



1959年7月 鰯一本釣り船の水揚げ石巻湊魚市場 背景は日和山

雑貨などを古民家に並べて、古民家の古道具屋・山下亭を商っております。2023年は一度、東京へもと考えております。皆様ともお会いしたいです。皆様ともお会いしたいです。皆様ともお会いしたいです。内にお会いしたいですね。お世話になった中塩善次郎先生のお墓まいりに行きたいです。高3の担任でした。岡部君や坂田君の活躍を楽しく拝見しています。皆様お元気で!!(広瀨・門脇中学校、ラグビー部、古民家の古道具屋・山下亭、ブリテン島古代遺跡めぐり)

安住 豊(38回生)

基礎疾患を持つ身としては、気楽に友人と会ったり、自由

に旅行もできず、行動が制限されています。『ウイズ・コロナ』の生活パターンを確立しなければと思っている最近です。(女川中学校・化学部・読書・スキー)

小池 泰(38回生)

元気でやっております。(中津山中学校・ボート部・水泳)

小山慶孝(38回生)

生活の取組みは、ゴルフと旅そして読書。「よろよろ、よたよた、しょぼしょぼ」、なに?…あれ?」10年先がおぼろになる今日この頃です。(石巻中学校・人文科学部・医療機器メーカー・ゴルフ・釣り・旅行・読書)

阿部盛行(38回生)

第77回とちぎ国体、孫の応援で谷中湖へ行ってきました。舵手付フォードルプルで宮城県選抜として石高から2名。三年振りの孫は私の身の丈を超えガツチリし、正にエンジン部門担当にピッタリでした。結果、大会6位と貢献出来ました。私は毎朝の健康太極拳、地域手話サークルの活動、そして9月からシルバー人材を

通して、HCで働き始めました。80才迄は「元氣」で居たいと思います。最後に会員皆様のボート部へのご支援お願いいたします。(女川第一中学校・柔道部・シルバー人材・旅行・太極拳・手話)

熊谷勝義(38回生)

団塊の世代が後期高齢者に突入。2022年問題の当事者として社会保障のあり方特にサービスを受ける受給者の思いをちょっと一言。ネットで調べると平均寿命は男性81.5歳、健康寿命72.7歳、平均余命あと11年だそうです。健康寿命をとくに過ぎ基礎疾患・持病の一つや二つは当たり前前の同期諸君あと少なくとも11年何とか元気に気力を絞って生き抜きましょう。三大疾病はもちろん現下の閉塞社会コロナの長引く自粛生活による認知症には十分気を付けたいところです。いまから「成年後見制度」のしくみや、地域包括支援センターに向き介護保険サービスの概要をつかんでおきましょう。よきケアマネジャーに巡りえればベストでしょう。(湊中学校・社会保険労務士・テニス)

熊本正義(38回生)

会報いつも拝読しています。職場をホームセンター業界にて現役続行中です。喜寿記念に同期佐藤孝一君・及川邦夫君と絵画3人展を石巻市内会場で開催予定です。幹事の皆様いつも会報ありがとうございます。(湊中学校・石油業界OB(コスモ石油)・ホームセンター業・油絵・ゴルフ)

渡部正昭(38回生)

我々38回生もいよいよ後期高齢者の仲間入りをしました。私は増えた自分の時間をあれやこれやで存分に楽しみ、豊かな日々を過ごしているつもり?!でおります。そして健康寿命が一日でも延びたら良いな!!と、願っています。昨夜、サッカーW杯カタル2022で日本がドイツに逆転勝利!!世界中の人々を驚かせました。2022・11・24記(涌谷中学校・テニス)

早川 誠(38回生)

昨年7月、脳こうそくを患いました。幸い軽かったため、半身不随等にはならず普通の生活を送っていますが、改めて健康の大切さを感じていま

す。ただし、薬5錠(血液サラサラ、血圧、コレステロール、尿酸、胃腸)を毎朝服用することになってしまいました。エッ、5錠じゃ少ないって…?

熊谷道夫(39回生)

コロナ禍でも何とか元気に暮らしています。飲み会の幹事としては、いつも開催の可否について悩まされています。祖父としては、かわいい孫娘と直接会えないのが残念です。(石巻中学校・元国家公務員・ゴルフ)

畠山廣造(39回生)

令和4年7月から東京・湊中会の幹事になりました。湊中出身者で事務局に未登録の方は非連絡下さい。連絡先…佐藤様 sato-ss@com.zaqnc.jp(湊中学校)

瀬川 徹(40回生)

コロナ禍ですが、元気に仕事を続けています。来年(2023年)こそは、リアル総会でお会いしたいですね。(門脇中学校・生徒会・弁護士・テニス・ゴルフ)

米倉伸明(40回生)
全て変更ありません。

阿部義治(40回生)

2008年8月に胃の全摘手術をして14年が経過。一病息災で日々健康長寿目ざしてアクティブライフに心がけています。コロナでこの3年はちょっと遠ざかっていますが、山登りを続けています。スキーもやりたいものです。仕事も過去の職務経験を活かしながら監査コンサル業務をお世話になっております。しっかりと食事をバランスよくとること、運動を心掛けること、そして社会的活動をする中で、フレイル防止に努めたいと思います。(住吉中学校・生物部・自営(監査コンサルタント)山登り・スキー)

遠藤栄松(41回生)
(矢本第二中学校)

菅原新也(41回生)

菅原若水の俳号で俳句づくっています。角川春樹特選「身に沁むや 木にも心の ある話」、夏井いつき特選「聖夜かな 腐敗を防ぐ ものに塩」(籠岳中学校・水泳部)

沼倉寿男(41回生)

(女川第一中学校・硬式野球部)

田口敏明(42回生)

11月18日に松島の大観荘での同期会に参加予定です。(住吉中学校・会社員・ゴルフ)

村田 彰(42回生)

お便りありがとうございます。明日10月5日は石巻で石中時代の古希祝の同期会で、久しぶりに石巻へ向かいます。楽しみです。夜9時に寝て、5時過ぎ起床の日々。月一のゴルフを楽しんでおります。始業のベルが聞こえる所に住んでいたの、登校はラストでした。合宿で中村雅俊さんと風呂に入ったり、女子商と試合した事が想い出されます。皆様に宜しくお伝え下さい。(石巻中学校・バスケットボール部・建設会社・ピアノ・ゴルフ・ギター)

伊藤信一(42回生)

(矢本第二中学校・陸上競技部・時間講師)

伊藤純一(43回生)

東京鰐陵会事務の進行につ

て、皆様に助けていただき、ありがとうございます。繰り返し押し寄せてくるコロナ禍の波にもまれながら、相変わらず教育行政に携わっています。(飯野川中学校・軟式庭球部・公務員)

遠藤洋治(43回生)

事務局を拝命してから石巻の話題に触れることが多くなりました。涌谷町出身のせい、石巻の出来事や地域の特性をあまり知らなかったことに気づき、驚いています。六十五歳の手習いで始めたフルートと木版画を今も続けています。一向に上達しないながらも、それなりに楽しんでいきます。(籠岳中・柔道部・物流業・フルート)

小田島孝好(43回生)

最近嬉しかった事。地域のSDGs活動として川の土手の草刈りと小学校の下校時の横断歩道での交通安全活動です。特に交通安全活動は児童たちとの挨拶が楽しみになっています。ある時、2年生の女児からお手紙を頂きました。そこには感謝の気持ちの言葉がつつばられていました。やっ

てて良かったと思えた瞬間でした。6年生の児童からも、なぜ交通安全活動を実施しているのかとの質問もありました。説明をしてあげると感謝の言葉を頂きました。このよう

な形ですが、子供達とつながりができ嬉しく思っています。もう少し続けられそうです。(石巻中学校・柔道部・電機製造メーカー・ゴルフ)

佐々木哲雄(43回生)

高校時代は卓球部に所属していました。その仲間とiPhoneでメールのやりとりが今年(2022年)から始まりました。卒業後、50年ぶりに友達同志が故郷で再会でき、旧交を温めています。最近の写真も交換し合っています。来年は関東地区の元卓球部の仲間と再会することに、それが楽しみです。(飯野川中学校・卓球部・アルバイト・卓球・尺八)

佐藤雅洋(43回生)

東京鰐陵会総会を機に友人達と連絡がとれ、LINEの交換、近況を報告し合う中、ようやく、石巻に帰郷する機会に恵まれ、懐かしい友と落ち

合うことができました。お互い高校時代の面影は薄れていますが、懐かしい部活の話で盛り上がり、楽しいひと時を過ごせました。御承知のとおり、石巻は復興事業が進



1959年12月 仲町川岸通り巡航船乗り場(鈴吉汽船前)



1959年12月 西内海橋通り



(左) 1960年8月 由利ちゃん錦を飾る 石巻川開き祭り



(右) 1960年8月 南利明と天津敏 坂下町付近 本町(広小路交差点)石巻川開き

み、北上川には、新たな内海

橋が完成しておりました。市内を散策しましたが、高校時代の活気のある商店街もさびれて寂しい限りでした。hotelの若い従業員は、「まさに世代替わりの時でこれから新たな石巻が生まれま

若山栄作(43回生)

2022年5月に10回目の油絵個展を開いた。10回でも30年かかった。教職時代から活動を始めたものだ。個展を開催するには新作を30点以上揃える。そのためには私にとって3年はかかる。ここまで続けて来ることができたのは、不特定多数の皆さんに見て頂き、ご批評も頂けるからだ。今回特に嬉しかったのは同期の遠藤洋治氏、小田島孝好氏、佐藤休三氏にゆったりとじっくり鑑賞して頂いたことだ。会場は温かく和やかに

なった。これからの私の制作の励みとなったことは言うまでもない。(中津山中学校・重量挙部・画家・スイミング)

山崎義二(45回生)

私の母校旧鳴瀬町立小野小学校の作法室に、郷土の偉人の写真が掲げてあり、一番目に掲げてあったのが富田鐵之助翁で、確か肖像画だったと思う。小野の最後の殿様で後に日本

銀行2代目総裁になった人

思っていた。阿部和夫氏の特別寄稿を読み、翁の生涯を改めて詳しく知ることができてとてもうれしい。感謝！石高入学後、陸上部に入部し、長距離の練習に汗を流していた。石高は全国高校駅伝県予選に出たいと知り、どうして出たかったのか「一緒に走ってほしい」と先輩たちにお願ひし、何とか7名そろい出場した。結果は19校中17位だったが1区の10kmを走り、思い出にのこる大会だった。2年3年時は人数がそろわず不参加。高2の文化祭では柔道場でベンチャーズの曲を仲間と演奏。高3の時は、体育館にて高2同様ドラムをたたいた。陸上部の仲間やクラスメートにボーカル希望者が多く、ビートルズやローリングストーンズ等当時はやっていた曲をみんなで歌いもありあがった。小学校教員時代は、楽器のできる職員がいれば、音楽集会や文化祭等に向け職員バンドを作り練習した。当日は子どもたちや保護者からたくさんの喜びの声や拍手をいただき、うれしかった。退職後の現在も、教

員時代の仲間とバンドをつくり、生き生きクラブ、地域まつり、文化祭等に出演し楽しんでい

伊藤隆(46回生)

昨年11月、日帰りで、石巻高校でラグビーの講演をしました。少しでも現役のお役に立つと良いのですが。(現在、関東ラグビー協会理事)(雄勝中学校・ラグビー部・元(株)リコー)

伊藤哲郎(46回生)

昨日(10月中旬)辺りから大分冷え込んできたようです。最近是非ノンカフェインの紅茶やコーヒを好んで飲んでいます。夜の就寝前のひと時、ふるさと石巻を想い出しながら飲むカフェは心温まる時間になっていきます。(湊中学校・専門学校・大学教職員(現役時代)・現在はオンライン授業講師)

佐藤賢一(46回生)

ボランティアで地域の子どもの会活動をサポートしています。キャンプ、花植え、老人

ホーム訪問など、自分自身のリフレッシュにもなっています。(中津山中学校・演劇部・人材派遣業)

成家新一(62回生)

(石巻中学校・卓球部・障害福祉業)

渡邊公威(64回生)

遅くなり、申し訳ございません。二期会オペラ《天国と地獄》の公演をはじめ、演奏活動を続けております。早くコロナ禍が収まり、皆様に歌声をお聞き頂けますよう、より一層励みたいと存じます。どうぞご自愛下さいませ。(石巻中学校・吹奏楽部・オペラ歌手・料理)

大和優雅(65回生)

2022年7月〜12月まで、河北新報朝刊コラム「微風旋風」を担当させていただきました。ようやく文芸部出身らしいお仕事ができました。(箕岳中学校・文芸部・映画監督)

《挿絵写真について》挿絵写真は写真家・橋本照嵩様(30回生)よりご提供いただきました。ご協力に感謝とともに心から御礼を申し上げます。

特集3 母校は今

「コロナの克服に向けて」(学校の様子)

鰐陵同窓会事務局長 二階堂守宏(57回生)

令和4年度もコロナの影響を受けた1年間でしたが、年度の後半は感染対策等の工夫を凝らしながら行事を行い、コロナ以前に近いかたちで学校生活を送れた1年間だったと思います。生徒も充実した学校生活だったと思います。

◆主な学校行事

4月8日に始業式・入学式は教室にて放送で実施しました。

1年生の入学後は恒例の対面式でしたが、上級生のおどしのような罵声もなく一部の生徒会代表との対面式となり



教室での入学式



総体壮行式



体育祭



強歩大会



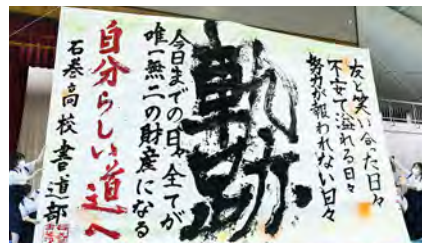
同窓会入会式 青木同窓会長

ました。応援練習もコロナ感染予防のために中止となり校歌・応援歌等を放送で流すのみとなり、年度初めの光景が見られなくなりました。伝統の行事が中止せざるを得なく応援団の活躍の場面が少なくなったのが気がかりです。

5月には生徒総会・壮行式がありました。体育館には3年生の生徒のみで1・2年生はリモートで教室からの参加となりました。しかし、2年ぶりに生徒会活動・壮行式が行われたことに大きな意義がありました。

6月には鰐陵総体(体育祭と球技大会)をコロナ感染対策をとりながら実施しました。男子高時代は縦割りの対抗戦でしたが、最近は男女別の種目やクラス対抗の形をとって実施しています。

8月には文化祭を実施、一般公開は保護者のみに行う予定でしたが、コロナの第7波のため急遽校内のみでの実施、保護者にはステージ発表など



文化祭



修学旅行

10月は強歩大会(マラソン大会)が行われました。前回行われたのは平成30年度で天候不順やコロナ禍で中止となり、4年ぶりの開催となりました。校外での活動自体が制限されていたので、久しぶりの校外での活動で生徒達も元気に参加していました。

また、12月には修学旅行がありました。今回は3年ぶりに通常通りの関西方面に行きました。

卒業式



◇令和5年度 進路状況

(令和5年3月23日現在)

現在この文章を書いているのは3月末ですが、今年度の進路状況がほぼ出そろいましたので報告します。国公立大学の合格者が80名を超えました。今年も良い結果を出してくれたと思います。

【主な合格先(合格者数)】

◎国公立大学(81)

東北大(6) 宮教大(9)

北海道大(1) 岩手大(7)

山形大(15) 福島大(2)

新潟大(4) 東京学芸大(3)

宮城大(8) 高崎経済大(3)

その他(23)

◎私立大学(386)

東北学院(86) 東北工大(16)

東北福祉大(56)

東北医薬大(14)

宮城学院女子大(17)

東北文化学園大(9)

獨協大(5) 千葉工大(17)

青山学院大(3)

学習院大(2)

慶応大(1) 駒沢大(2)

芝浦工大(4) 中央大(1)

東海大(8) 東京電機(4)

東京農大(3) 東洋大(11)

日本大(20) 法政大(6)

明治大(5) 明治学院(6)

早稲田大(2) 立教大(1)

その他(87)

◎短期大学(2)

◎看護学校(15)

◎各種専門学校(5)

◎大学校(1)

◎公務員(2)

◇部活動の活躍(令和4年度)

6月の県高校総体は通常通り開催されました、3年生にとつて最後を飾る大会であり、東北大会、全国大会への予選会でもあり、各部ともよく健闘し、ボート部、ヨット部がインターハイへの出場権を獲得しました。インターハイではボート部の男子ダブルスカルが優勝するなど素晴らしい活躍を見せてくれました。

また、文化部も活躍し全国大会へ出場しています。全国大会での成績は次の通りです。(名前の後の○数字は学年)

◎インターハイ

・ボート部

【男子ダブルスカル】

高橋興生③・武山慎③

第1位

【男子シングルスカル】

高橋宏太郎③

準々決勝進出

【女子舵手つきクオドルプル】

齋藤眞子②・渡邊日菜③

早川美鈴②・井上美空②

高橋凜③

準決勝進出

ヨット部

【男子420級】

阿部瑞樹③ 福島蓮②

第41位

【女子420級】

齋藤冴羽③ 小泉紅葉③

第27位

後藤百合香③ 千葉羽澄③

第29位

【男子レーザーラジアル級】

國分慧③ 第30位

【女子レーザーラジアル級】

熱海和奏③ 第20位

◎全国高等学校総合文化祭

・新聞部

三浦惣大② 及川莉子②

・書道部

千葉百夏③

・美術部



インターハイ優勝ボート部

山形真央②

◇同窓会事務局より

総会中止について

皆さんもご存じの通り、4年度総会はコロナ禍により中止となりました。令和5年度の総会は8月12日(土)を予定しています。3年間で中止になっていたことから、主管回生も3年間は2学年の回生にお願いすることとしていきます。令和5年度は66・67回生に主管回生をお願いしました。

この会報が発行される頃には無事に開催されていることを願っています。

◇百周年記念事業の進捗状況(報告)

石巻高校は令和5年4月に創立百周年を迎えます。記念式典は令和6年11月8日(金)を予定しています。本来であれば百一年目の令和5年に実施予定でしたが、ここ3年ほどのコロナ禍で準備が遅れているために、1年遅れの実施予定となりました。

現在、百周年に向けて学校と同窓会が中心となり準備を進めており、今までの周年事業と同様に実行委員会を設立

して行います。

令和4年の2月には実行委員会を設立、また令和5年の3月に役員会を開催し実施日程、記念講演会講師を決定しました。

実行委員長には同窓会より青木会長が、各事業などの重要な役割に副会長が就任しました。同窓生の皆様のご協力よろしくお願いたします。

なお、百周年記念事業は左記の内容を予定しています。

【開催日】

・令和6年11月8日(金) 午後

※式典・講演会・祝賀会は同日に実施

同日に実施

【記念式典】

・マルホンまきあーとテラス

【記念講演会】

・マルホンまきあーとテラス

【講師】

・高砂淳二氏(53回生)

自然写真家

自然写真家

「Wildlife Photographer of the Year」

自然芸術部門 最優秀賞

【祝賀会】

石巻グランドホテル

《記念誌編集》

《記念(整備)事業》

《同窓会報(百周年記念号)》

丹沢表尾根縦走ルート

佐藤休三(43回生)

令和4年1月から12月までの山行記録を見ると36回山に入り、延べ日数48日となっていました。70歳を前に例年がない入山記録となりました。

今回紹介する表尾根はその中でも最も多く歩いたところですが、魅力は距離がそれほどで変化に富んでいること、第二に景色がいいこと、三番目に珍しい花に出会えること、さらに自宅から近いということです。蓑毛から入り、最高地点である塔ノ岳(1491m)経由で大倉(290m)に降りるとその距離は20kmを超え、標高差は1200mほどになります。蓑毛は小田急線秦野駅から



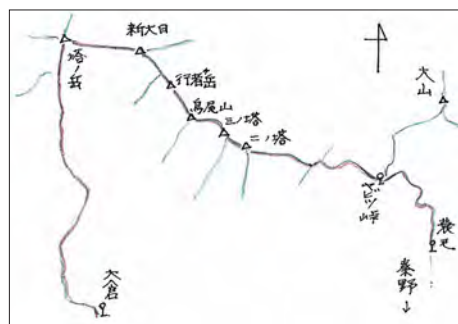
塔ノ岳山頂

バスで20分ほどにあり、ここからヤビツ峠まで柏木林道を歩きます。柏木幹太氏が5か月で完成させた道は程よい傾斜で歩きやすく、また南向き斜面にあるので冬晴れの日は快適です。ヤビツ峠まではバス便もあり、ここからスタートすることもできます。峠から車道を2分ほど下り表尾根コースに入ります。道はスギ・ヒノキ林から雑木林になりやがて草付きのガレ場になります。このあたりで振り返ると大山、秦野、横浜の市街地、三浦半島、江ノ島、房総半島と眺めることができます。ほどなく最初のピーク二ノ塔に着き、さらに20分ほど進むと三ノ塔(1205m)に至ります。まだ新しい避難小屋のある平らな山頂からは先程の景色に加えて富士山、箱根の山々、塔ノ岳までの稜線、丹沢三峰など360度の展望を楽しむことができます。

5分ほど歩いた先で高低差140m、距離400m余りの急坂を下ります。特徴的な三角屋根の烏尾山荘を過ぎ、登りきったところに行者ヶ岳があります。ここから岩稜と鎖場が続き、さらに崩壊の激しいガレ場の痩せ尾根を渡ります。コースでは一番の難所といえます。書策小屋跡地を過ぎ新大日小屋跡に至ります。新大日からは標高も1300mを越え植生にも変化が見られます。木ノ又小屋は週末営業の小屋で標高1390m、ここから3〜40分ほどでコースの最高地点塔ノ岳になります。塔ノ岳山頂からは蛭ヶ岳(1673m)をはじめとする西丹沢の峰々、富士山、奥多摩、八ヶ岳、南アルプスなどの大展望を楽しむことができます。下山路は8kmに及ぶ大倉尾根、通称バカ尾根と呼ばれ、登りはかつて多くの山岳部員を苦しめたとか。現在は上部が階段、中盤は木道、終盤は敷石状に整備されています。

季節ごとに楽しみにしている花は柏木林道のタチキランソウ、行者ヶ岳付近のツクシシヨウジョウバカマ、コイワザクラ、アカバナヒメイワカガミ、サガミジヨウロホトトギス、ガレ場のピランジ、木ノ又小屋付近のキクザキイチゲなどです。また、朝ドラ「らんまん」の牧野富太郎氏が日本人で初めて学名を付けたといわれるヤマトゲサはヤビツ峠で見ることが出来ます。ちなみに妻・寿衛子さんの名前を学名に入れたスエコザサは仙台で標本を見つけたとか。最後に散歩について話します。山は毎週登れば足の調子は維持できます。しかし2週間以上何もしないで山に入ると登りがきつかったり、足をつったり、筋肉痛で苦しむことになります。私の散歩はYouTubeを聴きながら行い

ます。言葉による表現の多い歴史解説、雑学、朗読、落語など興味関心にあわせて選びます。聞いているうちに散歩が終わり、気負いなく散歩ができます。令和5年度は山に入る機会が少なく、散歩の機会が増えそうです。



表尾根略図

絵かきとしての想い

—過去・現在・未来— 若山栄作(43回生)

昨年の五月に10回目の油絵個展を開きました。ここまで来るのに30年掛かりました。40歳のとき意を決して始め、大体3年に一度の開催、気付いたら70歳です。5年前に教職関係の仕事を終えたので、今は絵かき一本の仕事です。この調子ですと20回目の個展は100歳となりますか。

例えば、故郷桃生町から千葉の大学に来て美術を学び始め、半世紀が過ぎました。石巻高校から青木利光さんと私



第10回 若山栄作油絵個展
令和四年五月三日(火祝)―八日(日)
千葉市民ギャラリー・いなげ

個展案内のDM

でも手放すときは、もちろん購入していただく嬉しさはありますが、私の手元から去る寂しさを感じます。その人のもとで幸せに暮らして欲しいと思うのです。

絵の題材は、主に海外の風景です。旅行先でスケッチや写真撮影と取材をし、帰国後、構想・デッサン、制作を重ね、作品をつくり上げます。他国を見聞し、自分の肌でその国の雰囲気を感じ得ることはこの上ない喜びです。私は、そこで感動したこと、体験したことを何とか絵にしたいという気持ちでいつも制作に取り組んでいます。

それがコロナ禍に加えて、ロシアのウクライナ侵攻で海外渡航がこの4年ほど大変難しい状況が続きました。この間、コロナ禍前に行ったモロッコやアドリア海沿岸の絵を描き続けてきました。前者は23作、後者は29作を重ねています。実際に行った所は、感動が消えないものと改めて思います。しかし、そろそろ新しい題材を求

め、今の海外の状況を肌で感じに、行きたいとの思いが強まりました。そこで意を決してバルト三国他を巡る旅に出ることにしました。以前から行こうと思っていた三国です。ウクライナ状況も大変気になるところでした。まだコロナ明け前だったので海外渡航用の「コロナ証明書」を取得する等いつもと違う準備も慌ただしく、今年4月13日から8日間の旅でした。

成田から先ずワルシャワに行きます。どの空路なのかとモニターを見てなるほどと思いました。ゴビ砂漠からカスピ海南、トルコ上空から右旋回し、ルーマニアを抜けワルシャワに至るというものでした。ロシア上空を慎重に避けて飛行していることを肌で感じ、早速、世界状況を目の当たりにしたものです。ワルシャワから別便でリトアニアの首都ヴィリニウスへ。いよいよここからバスでバルト三国への旅が始まりました。

ヴィリニウスの旧市街地は、森の中に静かに佇む広大な博物館群の趣で独特な文化の様相でした。ヴィリニウスから西へ100 km程に旧首都の

カウナスがあります。ここに「命のビザ」で有名な杉原千畝が居た旧日本領事館があります。映像や写真、当時の執務室を目の当たりにして感動なくしてみることはできませんでした。今正に隣で戦争が起きていくわけで、過去と現在が混沌とし、何とも言えない複雑な気持ちになりました。紙面の関係でラトビアとエストニアについては割愛しますが、三国を通じて強く思ったことは、どの国の主要な機関や民間のビル(例えばリトアニアの大統領府)にウクライナの巨大な国旗が掲げられていることです。各国民の強い意志の表明と感じた次第です。日本の内閣府の壁一面にウクライナの国旗が掲げられるだろうかと思像しました。

今後、今回の海外旅行で触発され、取材した風景を筆触一つ一つによって、風景を私なりの再創造で描いていこうと思います。早速ワルシャワから手掛けています。画家の野見山暁治は、100歳を超えても現役で、「100歳にして絵を描くことはこんなに楽しいものか」と語っています。100に比べれば、私は

30も若く、「こんなに楽しい」の境地には至っていません。それを今後の制作や人生の目標にしようと思っています。

追伸、野見山暁治氏は、6月22日逝去されました。102歳でした。ここに慎んで哀悼の意を表します。



筆者近影



リトアニア大統領府前

石巻高校で培った鰐陵魂を胸に

内海清佳(82回生)

東京鰐陵会の皆さま、はじめまして。

この度ご縁に恵まれ、会報誌「東京鰐陵」に寄稿させていただきましたことになりました。2010年3月卒業生の内海清佳と申します。

今回はこの場をお借りし、私の仕事について紹介したいと思えます。私は現在、関東を中心にピアノリスト/ピアノ講師として活動しています。ピアノは小学一年生の頃から続けていましたが、大学受験当時はピアノひとつで生きていく未来に不安を感じ、教員免許を取得しつつ音楽の勉強もできる宮城教育大学の音楽教育学科に進学しました。しかし、日々恩師や大学の先輩、



友人たちの熱い演奏にふれ、音楽に囲まれた学生生活を送るうち、ピアノリストへの憧れが強くなっていきましました。大学卒業後は思い切って東京にある武蔵野音楽大学大学院に進学し、現在も関東中心に演奏活動とピアノ指導を続けています。

演奏家や楽器講師という職業において、正社員雇用は非常に稀です。フリーランスの音楽家が演奏の仕事を得るには、実績を作り、人とのご縁を育みながら徐々に演奏機会を増やしていくやり方が多数派です。また講師業において、楽器を習いたいという方々に自分を知っていただき、さらに指導者として信頼して通っていただくのはとても難しいことです。

私自身は大学院修了後しばらくの間、ピアノだけでは全く生計が立たず、毎日早朝からカフェやデパートの食品売り場でアルバイトをして

いました。

演奏の仕事がようやく増えてきた頃、2020年より新型コロナウイルスの蔓延が始まりました。一時ピアノでの収入はゼロになり、また素晴らしい実力を持ちながらも、音楽を諦めて他業種に就職した方々の様子も目の当たりにしました。しかしそうした状況下でも、YouTubeやリモート公演で演奏をお届けするなど細々と活動を続け、昨年の春頃よりようやく様々な仕事が舞い込むようになりました。現在は大変ありがたいことに、ホテルニューオータニはじめフレンチレストランやクルーズ船でのレギュラー演奏、合唱団の専属伴奏など、奏者と



してのコンスタントな仕事も増えました。コンサートでは関東だけでなく各地方での公演機会にも恵まれ、レッスン業においても多くの生徒の皆さまを指導させていただいています。ようやくピアノひとつで生活するという、かつては夢のように感じていた目標に辿り着く事ができました。

私の代のセンター試験当日、当時の石巻高校の三年生担当の先生方が、試験会場まで応援に駆けつけてくださいました。国語科の菅野勇太郎先生は大きな鰐旗を振り、「頑張れ！」と力強く私達受験生の背中を押してくださいました。あの光景は今でも心に焼き付いています。高校在学中、先生方はよく「鰐陵生は卒業後に本当の鰐陵生になる」と仰っていました。その通り「質実剛健・進取独創・自ら

進運を開拓すべし」の精神は人生において常に私を支え、困難な状況下でも踏ん張る力を与えてくれます。

今後は音楽教室経営や定期的な大規模音楽イベント企画、既製曲の演奏だけでなく作曲編曲を行い発表するなど、新たな挑戦もしようと考えています。また関東のみならず大切な故郷である石巻において、地域の音楽のさらなる発展を目指して活動していく所存です。石巻高校で培った鰐陵魂を胸に、自分の可能性を信じて納得のいく音楽人生を全うし、社会に貢献できるような自身の役割を果たしたいと思えます。感染症の猛威も下火になりつつあります。いずれこの拙文をお読みいただいた同窓生の皆さまと直接お話しできる機会を心より楽しみにしています。

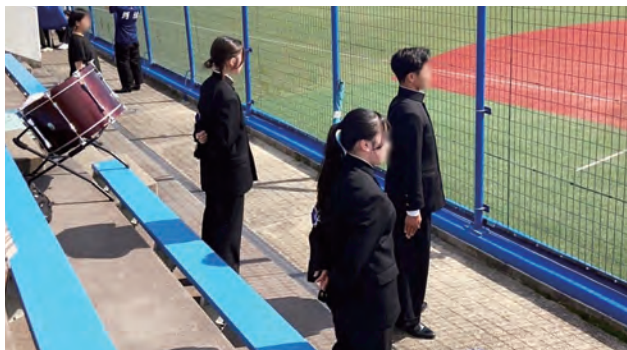
応援団への思い

真籠竜大(90回生)

皆様、初めまして。90回生の真籠竜大と申します。この度は寄稿の機会を設けていただき、ありがとうございます。

石高を卒業して5年の月

日が経ちました。部活動では陸上部に所属しており、ハンマー投げの選手として日々の練習に励んでおりました。残念ながら勉強面での成績はい



まいちでしたが、今じつくり
 と思い返してみると、多くの
 友人や恩師に恵まれた幸せな
 高校生活だったと思います。
 そんな石高での数多くの
 思い出の中でも、最も鮮明に
 記憶に残っているものは、応
 援団のことです。私は三年
 次、団長として石高の応援活
 動を統括しておりました。当
 時、対面式や応援練習での旧
 態依然とした理不尽な指導
 を見直そうという動きがあ
 り、私たちは、時代の流れに
 沿った新たな形での応援活動
 を目指しました。当初は生徒
 からの支持をなかなか受けら

れず、苦勞は尽きませんでした
 が、めげずに必死に活動し
 た結果、私が理想とする応援
 の形に、ある程度は近づけた
 と思っております。応援団活
 動を通じて得られた人脈や愛
 校心は、私にとつてのかけが
 えのない財産です。卒業後も
 応援団への思いは薄まること
 はなく、後輩たちへの指導も
 定期的に行っております。
 さて、私が卒業した2年後、
 世の中は新型コロナウイルス
 の脅威に晒されました。コ
 ロナ禍の応援団は存在意義を
 失いかけ、一時は活動の一切
 が出来ない状況となりました。

運営資金援助協力者名簿 (2023年8月20日現在)

回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名
21	織野 善夫	32	手代木 扶	38	安住 豊	42	土屋 清治
21	櫻田 巖	33	阿部 倫夫	38	阿部 盛行	42	新田 輝夫
23	亀山 平吉	33	木村日出夫	38	熊谷 勝義	42	村上 圭司
24	貝 啓	33	木村 貴剛	38	熊本 正義	43	伊藤 純一
24	佐藤 允俊	33	熊谷 正茂	38	小池 泰	43	遠藤 洋治
25	阿部 剛	33	堀内 文夫	38	小山 慶孝	43	小田島孝好
25	津田 健三	33	山内 明	38	館澤 佑	43	佐藤 雅洋
25	中里祐二郎	34	明石 公夫	38	早川 誠	43	成澤 貴義
26	浅野 貞夫	34	内崎 光勅	38	渡部 正昭	43	吉田 祐一
26	崎野 隆三	34	岡崎 國男	39	阿部 重雄	43	若山 栄作
27	及川 栄喜	34	久保 文征	39	岩崎 宏幸	44	尾口 仁志
27	徳江 明	34	西條 修	39	熊谷 道夫	44	半澤 竹彦
27	平塚 久義	34	佐々木孝三	39	今野 雅隆	45	新田 裕史
27	船田 清彦	34	武山 佑三	39	佐藤真木男	45	星 裕亮
28	成澤 良	34	千葉 保宗	39	畠山 廣造	45	山崎 義二
29	今野 勝幸	35	遠藤 信行	40	阿部 義治	46	阿部 順市
29	高橋佐四郎	35	星野 捷二	40	石森 雅文	46	伊藤 哲郎
29	千葉 弘二	36	阿部 長光	40	岩崎久二夫	46	伊藤 隆
29	半澤 正義	36	阿部 禎一	40	加藤 友成	46	佐藤 賢一
29	守屋 晃治	36	大森 彬	40	木村 道夫	46	伏見 洋之
29	山本 久敬	36	菊地 潔	40	佐々木 進	47	及川 和彦
30	木村 長人	36	相良 秀夫	40	佐々木 進	47	佐藤 敦彦
30	鈴木 賀夫	36	藤 俊治	40	瀬川 徹	48	明石 和彦
30	高橋 勝弥	37	安住 知彦	40	高橋 憲司	48	植松 正彦
30	田中栄太郎	37	遠藤 順敏	40	田村 隆	48	加藤 博
30	寺沢 正興	37	遠藤 信雄	40	榛澤 修三	48	鈴木 雅芳
30	蜂谷 国彦	37	木田 洋	40	平塚 善伸	50	高橋 悟
30	松田 勝治	37	今野 和明	40	萬代 玄	51	森口 秀志
31	阿部 弘	37	境田 憲男	41	遠藤 栄松	52	大内 浩
31	北川 洋三	37	佐藤 悠	41	小関 真悦	52	高橋 章建
31	桑島 馨	37	白鳥 隆幸	41	菅原 新也	56	星野 知倫
31	櫻井 勝夫	37	丹野 静也	41	杉山 茂	59	佐藤 昌克
31	佐藤 孝	37	千葉 徹	41	中村 雅俊	62	成家 新一
32	猪俣 斌	37	三浦 岩男	41	沼倉 寿男	64	渡邊 公威
32	鎌田 一郎	37	村井 善郎	42	伊藤 信一	65	大和 優雅
32	櫻井 庸正	38	浅野 正博	42	田口 敏明		

合計143名 / 519,000円

生徒への指導が出来ず、声を
 出して選手を応援することも
 叶わない、本当に苦しい状況
 だったと思います。
 そんな絶望的な状況下にお
 いても、応援団の後輩たちは
 何とか石高の応援文化を継
 承しようと、動き続けました。
 応援歌を自力で覚えなければ
 ならない、自身が経験したこ
 とのない応援練習をいきなり
 指導する側で行わなければな
 らない、身近に手本の無い応
 援の型を習得しなければなら
 ない：失われかけた習慣を一
 から取り戻すことは、想像を
 超えて大変だったことでしょ

う。しかし、後輩たちは応援
 団員としての責務を全うして
 くれました。そうしたここ数
 年の後輩たちの努力があり、
 今年は声出しでの全校応援練
 習、そして対石巻商業野球定
 期戦が復活しました。一卒業
 生として、後輩たちには感謝
 の気持ちで一杯です。
 これからの応援団は、伝統
 だけに囚われること無く、常
 に柔軟な姿勢で時代の流れに
 対応していかなければなりま
 せん。そのような中でも、先
 輩が愛してこられた校歌、
 応援歌を、今の時代に歌い継
 ぐことの喜びや誇りを感じな

がら活動してほしいと願って
 おります。私も、今後も微力
 ながら、後輩たちの活動に協
 力していければと思います。
 最後になりますが、現役の
 応援団は石高のために日々
 活動に励んでおります。彼ら
 の努力し続けるその姿は、日
 に日に頼もしいものになって
 まいりました。今後の応援団
 の活躍を、ぜひ温かい目で見
 守っていただければ幸いです。
 常に周りから求められる応
 援団、そして今後100年続
 く応援団を目指して。頑張れ
 石巻高校応援団！

2023年 東京鰐陵会役員名簿(敬称略)

役職	回生	氏名	役職	回生	氏名
参与	33	木村 貴則	理事	36	阿部 長光
参与	34	千葉 保宗	理事	36	菊地 潔
参与	37	丹野 静也	理事	37	村井 善郎
参与	37	境田 憲男	理事	38	安住 豊
監事	37	佐藤 悠	理事	38	早川 誠
監事	38	熊谷 勝義	理事	38	和泉 耕二
会長	40	加藤 友成	理事	38	丁子 幹雄
副会長	40	瀬川 徹	理事	40	阿部 義治
副会長	40	平塚 善伸	理事	40	斎藤 紀夫
事務局長	43	伊藤 純一	理事	41	高橋 兵一
事務局次長(会計担当)	42	新田 輝夫	理事	41	沼倉 寿男
事務局次長(会計担当)	43	遠藤 洋治	理事	41	山形 明夫
事務局次長	43	小田島孝好	理事	42	茂泉 吉則
事務局次長	44	尾口 仁志	理事	42	鈴木 卓郎
理事	22	鈴木 善治	理事	42	新田 輝夫
理事	25	阿部 剛	理事	42	田口 敏明
理事	25	中里祐二郎	理事	43	伊藤 純一
理事	25	武山 勝	理事	43	遠藤 洋治
理事	28	成澤 良	理事	43	小田島孝好
理事	29	岩渕 茂	理事	43	成澤 貴義
理事	29	千葉 弘二	理事	43	吉田 祐一
理事	29	今野 勝幸	理事	44	半澤 竹彦
理事	30	木村 長人	理事	44	尾口 仁志
理事	30	首藤 光春	理事	45	四野見喜久雄
理事	31	奥山 興悦	理事	45	新田 裕史
理事	31	桑島 馨	理事	48	鈴木 雅芳
理事	32	小野寺義昭	理事	49	平塚 仁
理事	32	手代木 扶	理事	52	大内 浩
理事	33	熊谷 正茂	理事	55	谷口 大造
理事	33	堀内 文夫	理事	56	亀山 光浩
理事	34	久保 文征	理事	56	星野 知倫
理事	34	佐藤 洋一	理事	58	浅野 剛
理事	34	武山 祐三	理事	59	佐藤 昌克
理事	35	平塚 征一	理事	62	成家 新一

第30回 東京鰐陵会総会のお知らせ

- 日時：令和5年11月25日(土) 12:00～15:00(受付開始11:00)
- 会場：「喜山倶楽部：平安の間」
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館9階
Tel：03-3262-7661 URL：https://kizan-club.com/
- 会費：10,000円(学生会費2,000円)
※会費は当日受付でお納め下さい
(会費内訳/総会参加費:9,000円、東京鰐陵会運営資金:1,000円)

恐れ入りますが、11月10日(金)までにお申し込みください。
※詳しくは東京鰐陵会 HP をご覧ください。
<https://www.gakuryou.com/>

東京鰐陵会ホームページの案内

東京鰐陵会にホームページがあることをご存じですか。
手持ちのパソコン、スマホから見てください。
アドレスは、<https://www.gakuryou.com/>
「東京鰐陵会」で検索することでも見つけられます。
クラシックなトップページです。中身も定期的には更新されていませんが、時々見てください。
トップページにある「鰐陵メール」で情報等もお寄せください。(HP担当：新田)

訃報(2022年7月1日以降)

前回発行以降に連絡及び昨年の総会中止案内の返信等で、下記のご逝去の報をお受けしました。心からご冥福をお祈り申し上げます。鰐陵回生順、年月日は、お受けした返信等によるご逝去の年月日です。

回生	氏名	訃報	連絡先
18回生	中里 昭三	2016(平成28)年1月28日逝去	ご家族より連絡
22回生	斎藤 勉	2020(令和2)年8月9日逝去	ご家族よりメール
24回生	加藤 直人	2022(令和4)年4月2日逝去	ご家族より電話
25回生	青沼 義信	2022(令和4)年6月2日逝去	奥様より連絡 肺炎と心不全
27回生	阿部 孝男	2018(平成30)年12月27日逝去	肺がん
28回生	大井 俊弘	2019(令和元)年5月26日逝去	奥様より連絡
29回生	末永喜八郎	2022(令和4)年11月15日逝去	千葉弘二さんよりメール
29回生	芦原 尚	2022(令和4)年12月12日逝去	千葉弘二さんよりメール
30回生	渥美 淳	2021(令和3)年逝去	
31回生	後藤 勲	不明	ご家族より電話
34回生	横山 征也	2021(令和3)年11月9日逝去	
35回生	谷 光彦	2022(令和4)年10月20日逝去	
37回生	成澤 良夫	2022(令和4)年5月20日逝去	
38回生	浅野 正博	2023(令和5)年5月12日逝去	奥様より連絡
40回生	榛澤 修三	2023(令和5)年2月17日逝去	
43回生	鈴木 速人	2023(令和5)年4月20日逝去	ご家族より電話
43回生	三浦 節夫	2022(令和4)年9月18日逝去	ご家族よりはがき (2023(令和5)年6月30日現在)

発行●東京鰐陵会(石巻高等学校同窓会東京支部)
会長 加藤友成
発行所●東京鰐陵会事務所(新田 輝夫 方)
〒115-0043 東京都北区神谷1-3-5-304
TEL & FAX : 03-3927-8856
編集●東京鰐陵編集委員会
Mail : info@gakuryou.com
【振込み口座】●郵便振替口座番号：00180-4-350194
加入者名：東京鰐陵会

【編集後記】
会報誌「東京鰐陵」21号は「世代を越えて集う東京鰐陵会を目指して」と題して前号に引き続き「交流特集号」というテーマで制作することにしました。
2020年度は総会が中止となり、2021年度は書面総会、そして2022年度は再度の総会中止となりました。会報誌第21号は3年続いてリアル総会報告のできない状態になりました。
特集は前号と同様、3本の特集を組むことにしました。特集1では「米寿・喜寿に寄せ」ということで米寿・喜寿の対象回生代表有志にご寄稿頂きました。総会で開催していた「米寿・喜寿のお祝い」を第30回記念総会で実施することもあり、総会を盛り上げる為にも今回の特集を組みました。特集2の「会員と共に」のコーナーでは特別寄稿「恩師からのメッセージ」と題し恩師の方々からご寄稿を頂きました。恩師の先生も高齢化が進み、交流を継続していくうえでの難しさを感じる経験でした。また「会員からのお便り(ハガキ)」では皆さんからの声を様々な視点でお伝えいただきました。特集3では「母校は今」というテーマでコロナを徐々に克服していく様子を報告して頂きました。
特別寄稿では43回生の方々にご寄稿を頂きました。また今回は若手の世代として82回生の内海清佳氏、90回生の真龍竜大氏にご寄稿頂きました。若い世代の視点での近況報告に注目です。
本号の編集は従来メンバーと同様に加藤友成会長(40回生)瀬川徹副会長(40回生)平塚善伸副会長(40回生)伊藤純一事務局長(43回生)新田輝夫事務局次長(42回生)遠藤洋治事務局次長(43回生)小田島孝好事務局次長(43回生)尾口仁志事務局次長(44回生)、そして佐藤悠監事(37回生)丹野静男参与(37回生)境田憲男参与(37回生)の11名で行いました。編集会議はZoomによるリモート会議形式が定着してきました。現在ではリアル形式とリモート形式を使い分けるようになってきています。コロナ前では考えられなかったことです。必要に迫られれば実現できるものと改めて認識した次第です。また今後は女性や若い世代からの編集委員への参加も呼び掛けていきたいと考えています。会員の皆さんからの積極的な参加をお待ちしています。
(編集委員会)